

北
広
島

事業報告書



北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

目 次

1.	はじめに	1
2.	令和7年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」実施計画	2
3.	4年生「町内お宝発見ツアー」	4
4.	5年生「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」	12
5.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	33
6.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」小学校事業を振り返って	46
7.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」中学校事業について	52
8.	おわりに	55

は じ め に

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えるなか、地方の若い世代が大都市部に流出することにより、さらに予想を超えるスピードで少子化が進み、人口減少も加速しています。

北広島町では平成 29 年に「第 2 次北広島町長期総合計画」を策定しました。教育部門で「夢と希望、豊かな学び合いにあふれたまちづくり」を掲げ、「ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子ども・若者・大人の育成」に取り組んでいます。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業は、小学校事業で、地域の皆様のご協力をいただきながら、学校間の垣根を越えた同学年が同じ活動や体験をする取組、中学校事業では、今年度より進路学習・キャリア教育の一環として、生徒自身が町内企業を知ることで、町内就職へのイメージを沸かせ、将来の進路検討に町内就職を加えることを目的として、企業訪問の実施を始めました。

こうした取組を通して、町内には多くの魅力や素敵な大人がたくさんいることを子どもたちは感じています。そうすることで、この事業を将来の定住や北広島町を応援する気持ちを持った子どもが育つことに繋がたいと思っています。こういった事業はすぐに結果が表れるものではなく、地道な活動の積み重ねになりますが、子どもたちの北広島町での様々な体験がこの町への愛着へと繋がると信じています。

さて、本年 1 月に開催した「北広島町二十歳のつどい」では、小学校事業のロケット教室の講師である株式会社植松電機の植松努代表取締役をお招きした講演会を実施しました。植松さんからの、夢を持ち実現することの大切さを実に 8 年ぶりに聞くことで、20 歳の皆さんにとって、将来への思いを新たにすることが出来たのではないかと思います。

これからの時代は、従来の価値観や技術にとらわれず、新たな発想と試行錯誤を繰り返し、未来を切り開く力が求められます。未来を生きる子どもたちには、本事業を通して、これら地域の誇りを学び、それを礎にして激動する時代の中でたくましく生きていく人間に育っていくことを願ってやみません。

町民の皆さま、地域の皆さまの益々のご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

北 広 島 ふ る さ と 夢 プ ロ ジ ェ ク ト 応 援 隊
隊 長 箕 野 博 司
(北 広 島 町 長)

令和7年度 「北広島ふるさと夢プロジェクト」実施計画

1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊について

事業目的:「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい、子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町の定住対策として、教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい子どもの育成」を目的とし、「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町の「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力を子供たちに再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。

全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

事業主体 北広島町

主 管 北広島町教育委員会

組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員は、町長部局の総務課・まちづくり推進課・商工観光課の職員、教育委員会の職員とする。

(事業実施については、教育委員会事務局及び校長会が主体となっていく。)

教育委員会事務局を事業事務局とする。また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	畑田 正法 (副町長)	増田 隆 (教育長)
隊員	中川 克也 (総務課長)	小椿 治之 (まちづくり推進課長)
	大本 賢一郎 (商工観光課長)	教育委員会職員
	武本 圭子 (小学校代表)	森近 泰典 (中学校代表)
	江崎 繁 (小学校代表)	
事務局	植田 伸二 (事務局長)	細居 操 (事務局員)
	松長 二三枝 (事務局員)	

2 具体的な事業の目的と本年度の取組について

小学校事業については、年度当初に、教育委員会と代表校長で協議を行い、諸計画を作成する。

昨年に引き続き感染症の対策を万全にとりながら、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」講演会及びロケット製作を行う。5年生の「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」は学校間交流も含め実施する。4年生については、昨年度同様、町内の魅力を体験する「町内お宝発見ツアー」を学校毎に実施する。また、本年度より、中学校事業として進路学習・キャリア教育の一環として、生徒が町内企業を知ること、町内就職へのイメージを沸かせ、将来の進路検討に町内就職を加えることを目的とした企業訪問を実施する。

■ 4年「町内お宝発見ツアー」

○町内の自然を生かした体験活動や施設・企業の見学を通して、ふるさとのよさを実感させる。

■ 5年「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」

○民泊の1つのプログラムとして、自然の豊かさ、地域の方々との触れ合いの楽しさを学ばせ、ふるさとの良さを実感させる。

○児童同士が協働して体験をすることで、お互いの親睦を図り、課題解決能力や協働する力を養う。

■ 6年「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

○植松電機 植松社長の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。

○ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めさせる。

○ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

■ 中学校事業

○進路学習・キャリア教育の一環として、生徒が町内企業を知ること、町内就職へのイメージを沸かせ、将来の進路検討に町内就職を加える。

4 年 生

「町内お宝発見ツアー」



令和7年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

本地小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和7年9月5日（金）

【場所】 テングシデ群落
豊平そば道場
豊平総合運動公園

【人数】 児童 7人 引率 3人

【ねらい】

町内の自然の見学や体験活動を通して、ふるさとの良さを感じる。



【 テングシデ群落 】

2. 活動の様子

「テングシデ群落」では、テングシデの名前の由来や歴史、テングシデを守っている地域の方の思いを聞いた。

「そば打ち体験」では、そばを打つ活動を通して、そば打ちの大変さを知った。体験後には、自分たちが打ったそばを食べ、食べ物を作る大変さを学んだ。

午後からは、「アンプティーサッカー」を体験した。スティックの使い方に戸惑っている様子が見られたが、最後には、楽しそうに活動をしていた。



【 そば打ち体験 】

3. 児童の感想

- ・テングシデ群落の由来を初めて知りました。天狗がいたと聞いて驚きました。木が曲がっていて、びっくりしました。ハートの形があると聞いたので、また行って探してみたいです。
- ・そば打ち体験を初めてしました。たくさん工程があり、驚きました。そばを打つ工程で、一番難しかったのは、こねるところです。一番楽しかったところは、切るところです。最後に打ったそばを食べて、とてもおいしかったです。またやりたいです。
- ・アンプティーサッカーが一番楽しかったです。はじめは、スティックを使うのが難しかったけど、最後に、試合をしたときには、うまく使うことができました。



【 そば打ち体験 】

4. 活動を終えて

子どもたちは、自分たちが住んでいる町内なのに知らなかったこともあり、新たに町内の魅力を発見することができた。また、アンプティーサッカー、そば打ち体験、テングシデ群落の見学を通して、さまざまな学びがあった。それぞれの体験を通して、工夫することの大切さ、食べ物への感謝、自然を大切にする気持ちを感じることもできた。

この活動で学んだことを、これからの生活に生かしてほしい。



【 アンプティーサッカー体験 】

令和7年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

豊平学園（前期課程）

1. 実施した活動について

- 【期日】 令和7年9月18日（木）
- 【場所】 芸北民俗芸能保存伝承館
北広島町まちづくりセンター
戦国の庭歴史館
北広島町図書館
- 【人数】 児童11人 引率2人
- 【ねらい】

町内の自然を生かした体験や施設の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。



【芸北民俗芸能保存伝承館】

2. 活動の様子

芸北民俗芸能保存伝承館では、実際に使われていた昔の道具などの展示を見たりクイズに答えたりして、北広島町に伝わる民俗芸能について学習した。

北広島町まちづくりセンターでは、施設内の各部屋の役割や職員の仕事について学習した。

戦国の庭歴史館では、吉川氏や当時の生活などについての展示を見たり、解説を聞いたりすることで昔の人の知恵に気付くことができた。

北広島町図書館では、館内を見学することで、本に貼ってあるラベルの意味や図書館の仕組み、また司書の仕事について学習した。



【北広島町まちづくりセンター】

3. 児童の感想

- ・戦国の庭歴史館では、城跡の石が400年以上残っていることがすごいと思いました。また、はん木（お経を印刷するための板）が日本でたった1つしかなく、それを見ることができて良かったです。
- ・知らないことを知ったり、したことのない体験ができたりと、とても心に残る貴重な日になりました。
- ・このツアーを通して、いつも行っている場所でも知らないことがあることにびっくりしました。今度行ったときは、細かいところまで見てみたいと思います。



【戦国の庭歴史館】

4. 活動を終えて

子どもたちは、北広島町の公共施設に行くことはあっても、その施設の仕組みや、担う仕事について、ほとんど知らなかった。この『お宝発見ツアー』による、北広島町の施設見学やインタビューを通して、「こんなところがあったのか。」と新しい良さに気付く児童や「休日に行ってみた。」という北広島町への更なる興味を持つ児童の姿が見られた。



【北広島町図書館】

八重東小学校

1. 実施した活動について

- 【期日】 令和7年9月19日（金）
【場所】 戦国の庭歴史館・豊平総合運動公園
【人数】 児童18人 引率3人
【ねらい】

北広島町の歴史や環境を生かした見学や体験をして、ふるさとのよさを感じる。



【戦国の庭歴史館】

2. 活動の様子

戦国の庭歴史館では、吉川元春についてのビデオを視聴した後、説明を受けながら展示品を見て回った。児童は、館の中には中世の出土品が多く残っていることに驚いていた。また、今は再現することが難しい積みれ方がされている石垣を見て、その美しさに声をあげる児童もいた。

豊平総合運動公園の広場で昼食を済ませた後、アンプティーサッカー体験をした。プロの選手から指導を受け、児童は慣れないながらも粘り強く取り組み、最後には試合をした。多くの児童はこの体験を「楽しかった」と振り返り、今回以外にもアンプティーサッカーを体験できる機会があると知ると、「またやってみたい」、「足が不自由な人とも一緒に試合をしたい」と話す児童もいた。



【戦国の庭歴史館で集合写真】

3. 児童の感想

- ・歴史館で北広島町の航空写真を見た時、山の部分が思ったより多く、山城がたくさんあることを初めて知りました。出土品もたくさんあって、すごいと思いました。
- ・アンプティーサッカーが楽しかったです。足が不自由な人でも、自分たちと平等にできるスポーツがあることにびっくりしました。またやってみたいです。
- ・北広島町では、戦国まつりや、インクルーシブスポーツフェスタなど、来た人が楽しめるイベントがたくさんあることを知りました。
- ・北広島町には優しい人がたくさんいるなと思いました。歴史館で案内してくれた人もアンプティーサッカーで教えてくれた人も優しく詳しく教えてくれたからです。



【豊平総合運動公園で昼食】

4. 活動を終えて

当該児童は、1年を通して八重東地区の有田城址について学習している。今回の活動により児童は、八重東地区から広がって、「北広島町のよさ」について考えることができた。今後もさらに北広島町のよさを実感できるように、これからも積極的に北広島町の自然や地域人材と触れ合う活動を計画的に取り入れていく。



【アンプティーサッカー体験】

令和7年度北広島ふるさと夢プロジェクト 3・4年生 活動報告

芸北小学校

1. 実施した活動について

- 【期日】 令和7年9月22日（月）
【場所】 道の駅舞ロード IC 千代田・芸北民俗芸能
保存伝承館・古保利薬師収蔵庫
・戦国の庭歴史館
【人数】 児童15人 引率2人
【ねらい】

北広島町の自然や施設の見学・体験を通して、ふるさとのよさを実感させる。

2. 活動の様子

「道の駅舞ロードIC千代田」では、この施設は周辺の観光情報を提供しているところであるということを見学や話をお聞きすることを通して知ることができた。また、地元の野菜料理を提供するバイキングレストラン、産直・特産品を販売する「きたひろ市場」の見学もさせていただいた。

「芸北民俗芸能保存伝承館」では、芸北地方（広島県北西部）で行われている様々な民俗芸能について、お話やスタンプラリーを通して学ぶことができた。日本の民俗文化の基礎となっている稲作と、稲作を中心とした農村の暮らしについて楽しみながら学んだ。

「古保利薬師収蔵庫」では、平安初期の薬師如来などの仏像を実際に見学させていただいた。1本の木からとても細かく仏像が彫られていることに児童は大変驚き、畏敬の念を持って参拝していた。

「戦国の庭歴史館」では、中世の遺跡とくらしについて学ぶことができた。お話や展示品から当時の人々の生活や信仰などについて知ったり、体験したりすることができた。

3. 児童の感想

- ・千代田は神楽が有名だから舞ロードに大きな太鼓がついているということがわかりました。
- ・古保利薬師収蔵庫では、薬師如来像が迫力があって印象に残りました。やっぱりどこも面白くて楽しかったので、北広島町は最高だと思いました。

4. 活動を終えて

今回の夢プロジェクトを通して、北広島町の魅力を感じた児童が大変多かった。同じ町内でも知らなかった場所や知っていても行ったことのない場所ばかりで、児童にとってふるさとの良さを知るよい機会となった。



【道の駅舞ロード IC 千代田】



【芸北民俗芸能保存伝承館】



【古保利薬師収蔵庫】



【戦国の庭歴史館】

令和7年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

壬生小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和7年9月22日（月）

【場所】 戦国の庭歴史館 豊平総合運動公園

【人数】 児童25人 引率2人

【ねらい】

北広島町(自分が住んでいる地域以外)について知り、良いところを見つけ、魅力を再発見する。

2. 活動の様子

・戦国の庭歴史館

職員の方から北広島町と関わりの深い吉川氏のお話を聞いたり、昔の人の暮らしを見たりしました。今の暮らしと比較し、昔の人たちの道具の工夫や、建物の工夫について学びました。戦国史に残る「吉川元春」と北広島町との関わりの深さに驚きつつも、誇りに感じているようでした。

・どんぐり北広島ソフトテニスクラブ講習会

どんぐり北広島ソフトテニスクラブの中本監督や選手の方からソフトテニスの指導をしていただきました。

ラケットの使い方を教わり、実際にボールを打ってみたり、スマッシュを打ち返してみたりと、ふだんはなかなかできないスポーツを楽しみました。後半には、中本監督からお話をいただき、プロアスリートとして食事の大切さと、北広島町のお米はおいしいということを教えていただきました。

3. 児童の感想

- ・歴史を学ぶことが思っていた以上に楽しかったです。古いものが今に残っていることにびっくりしました。6年生の社会で歴史を勉強することがとても楽しみです。
- ・間近に世界でも活躍されている選手のプレーを見て、とてもカッコいいなと思いました。私も中学校からソフトテニスをしたいという思いが強くなりました。
- ・「北広島町のお米は日本一」ということをソフトテニスクラブの監督の方に言っていただき、とてもうれしかったです。自慢のお米をこれからもたくさん食べて、丈夫な体にします。

4. 活動を終えて

北広島町の良さや魅力を発見する貴重な機会になりました。事前学習では、良さや魅力はあるものの、ピンと来ていないようでした。しかし、活動後の振り返りでは、多くの良さや魅力をさらに発見し、実感をともなった感想が多くみられました。当たり前を感じていたことが、町外から来た人から見たら、すてきな魅力だったということを再確認したようです。



【昔の道具を見ている様子】



【戦国の庭歴史館】



【ラケットの使い方を教わっている様子】



【どんぐり北広島ソフトテニスクラブ講習会】

八重小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和7年9月26日（金）

【場所】 ユートピアサイオト

芸北高原の自然館

八幡高原（おーいの丘）

【人数】 児童28人 引率3人

【ねらい】

北広島町の自然を生かした体験や見学を通じて、
故郷の良さを感じる。



【ジップライン体験】

2. 活動の様子

「ユートピアサイオト」でのジップライン体験では、職員の方に教えていただきながら、風を切る爽快感を味わいました。自然の中で活動する心地よさや友達と声を掛け合い協力する喜びを感じながら、北広島町の自然を生かした遊びの魅力を知ることができました。

「芸北高原の自然館」と「八幡高原（おーいの丘）」では、ガイドの方の案内で地域の自然について学びました。丘の上でやまびこを体験したり、初めて目にする植物の色や形に感動したりと、本物の自然に触れる貴重な経験となりました。



【ジップラインコース説明】

3. 児童の感想

○ユートピアサイオト

- ・自然の力で遊びを作っていることがすごいと思いました。
- ・ジップラインで、最初はドキドキしていたけど、1コースをやってみると、こわいよりわくわくした気持ちや、次のコースが楽しみな気持ちになりました。
- ・ジップラインは、森の景色を見ながらできるので、楽しさもアップします。

○芸北高原の自然館・八幡高原（おーいの丘）

- ・（おーいの丘で見つけた生き物の中で）毒を持つ花や虫、実でも、きれいな模様などがついていて、危険じゃなさそうと思うくらいきれいでした。



【芸北高原の自然館見学】



【八幡高原散策】

4. 活動を終えて

ふるさと夢プロジェクトに参加した子どもたちは、北広島町の自然に直接触れ、その豊かさを体感しました。生き生きとした表情で意欲的に活動し、「初めて知る生き物や植物があって面白かった」「北広島町には自然を生かした楽しい遊びや体験があることを知った」など、北広島町の良さを再発見することができたようでした。

大朝小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和7年10月6日（月）

【場所】 芸北民俗芸能保存伝承館
ちゅピCOM

豊平総合運動公園体育館

【人数】 児童11人 引率2人

【ねらい】

自分たちの住んでいる北広島町にはどんな施設があり、どんなことをしているのかなどを見たり体験したりすることを通して、ふるさとの特徴やその価値に気付く。



【芸北民俗芸能保存伝承館】

2. 活動の様子

芸北民俗芸能保存伝承館では、北広島町の文化財でもある田楽や神楽等の民俗芸能と春夏秋冬の農作業を関連付けた展示を見て回った。地域の子供神楽団に所属している児童も多く、身近なものである神楽の価値を発見することができた。また、新庄小学校と統合したことにより今年度から取り組み始めた「はやし田」の紹介を見ることで、より意欲をもつ児童がいた。

ちゅピCOMでは、普段取材をしてもらったりテレビで見ていたりする放送番組がどのようにして作られているのかを見せてもらった。機器に触れたり操作させてもらったりすることで、番組を作ることの大変さに気付いた。

豊平総合運動公園では、ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」の監督と選手にソフトテニスを教えてもらった。全員が初体験だったが、丁寧に教えてもらったおかげで少しずつ上達し、楽しむことができた。あっという間に時間が過ぎ、最後は「もっとやりたい。」という声が上がった。



【ちゅピCOM】



【放送収録体験】

3. 児童の感想

- ・体験コーナーが楽しかったです。昔の人の農作業の様子を見て、とても大変だったと知りました。
- ・カメラがとても重かったです。カメラマンの人はそれをずっと持っているのですごいと思いました。カメラの横に言葉が出るからカメラ目線で話せることを知りました。
- ・プロの球は速かったし、コーンをねらって当てたのがすごかったです。ソフトテニスは簡単にできると思っていたけど難しかったです。最初は打てなかったけど打てるようになりました。またしたいです。



【ソフトテニス体験】

4. 活動を終えて

児童は、本校で取り組み始めた「はやし田」が地域の伝統文化として貴重なものであることを知り、練習意欲が向上したように感じる。また、様々な体験をすることで北広島町の魅力を新たに発見していた。

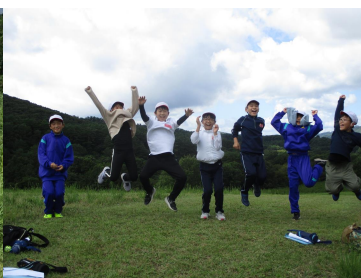
5 年 生

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」

田舎暮らし体験



ウォークラリー



そば打ち体験・藍染体験



川魚つかみ取り体験



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔5年生〕実施要項

「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

- 1 期 日 Aグループ 令和7年7月23日(水)～令和7年7月25日(金) (八重小・八重東小)
 Bグループ 令和7年7月29日(火)～令和7年7月31日(木) (芸北小)
 Cグループ 令和7年8月20日(水)～令和7年8月22日(金) (壬生小・本地小)
 Dグループ 令和7年8月27日(水)～令和7年8月29日(金) (大朝小・豊平学園)

- 場 所 1日目：午後 芸北文化ホールにて学校間交流、対面式～田舎暮らし体験
 ※昼食は、家庭または学校で弁当を食べる。
 2日目：午前 八幡湿原でのウォークラリー、午後 田舎暮らし体験
 3日目：芸北文化ホールにてお別れ式後、大暮養魚場でつかみ取り体験～帰校
 (芸北小)
 1日目：午後 豊平地域づくりセンターにて対面式～田舎暮らし体験
 ※昼食は、家庭または学校で弁当を食べる。
 2日目：午前 そばうち体験、午後 藍染め体験
 3日目：豊平地域づくりセンターにてお別れ式後、大暮養魚場でつかみ取り体験～帰校
 [芸北文化ホール] 北広島町川小田 10075-54 TEL 0826-35-0070
 [芸北 高原の自然館] 北広島町東八幡原 10119-1 TEL 0826-36-2008
 [大暮養魚場] 北広島町大暮 85-3 TEL 0826-38-0734

- 2 目 的
 ○自然の中での共同体験を通して、課題解決する力や協働する力を養う。
 ○町内の自然を生かした体験活動や民泊等の地域の方とのふれあいを通してふるさとのよさを実感させる。

3 小学校・義務教育学校 5年生 118人

	Aグループ		Bグループ	Cグループ		Dグループ		計
	7月23日～25日		7月29日～31日	8月20日～22日		8月27日～29日		
学校名 (割当)	A 八重	B 八重東	芸北	A 壬生	B 本地	A 大朝	B 豊平	
男子	10	6	4	15	6	9	12	
女子	11	8	3	10	4	12	8	56
児童数	21	14	7	25	10	21	20	118
班・児童数	5班 35人		1班 7人	5班 35人		6班 41人		17班 118人

4 日 程

- (1) 1日目「対面式」
 各学校より芸北文化ホールへの集合 (芸北小学校は豊平地域づくりセンターへ集合)
 [A:マ1中1 B:マ1 C:マ1中1 D:中2] ※マ:マイクロバス、中:中型バス、公:公用車 (数字は台数)
 A:八重小 [13:05] = 中型バス (21+先生)、八重東小 [13:00] = 中型バス (14+先生)
 B:芸北小 [13:20] = マイクロバス (7+先生)
 C:壬生小 [12:55] = 中型バス (25+先生)、本地小 [13:00] = マイクロバス (10+先生)
 D:大朝小 [13:10] = 中型バス (21+先生)、豊平学園 [13:05] = 中型バス (20+先生)
 ※13時45分頃に会場に到着できるように、計画を立てる。

対面式・1日目の活動の流れ

- 各校 ～ 13:45 到着 各学校よりバスで芸北文化ホールに到着後、指定場所に荷物を置く。
 13:45 ～ 13:50 準備・整列
 13:50 ～ 14:50 学校間交流

- 14：55 ～ 15：40 グループミーティング
 ①ウォークラリーについての説明 ②自己紹介 ③班名決め、班長決め、係決め
 ④ウォークラリー出発順・方向決め ⑤作戦会議
 15：50 ～ 16：00 準備・整列
 16：00 ～ 16：30 対面式
 ①開会
 ②北広島町代表挨拶（役場支所長等）③児童代表挨拶 ④学校代表挨拶
 ⑤民泊家庭自己紹介 ⑥教育委員会職員紹介 ⑦民泊家庭とのお互いの自己紹介
 ⑧閉会
 16：30 ～ 民泊家庭への移動

芸北小学校

- ～ 13：50 到着 バスで豊平地域づくりセンターに到着後、指定場所に荷物を置く。
 13：50 ～ 14：00 準備・整列
 14：00 ～ 14：30 対面式
 ①開会 ②北広島町代表挨拶（役場支所長等）③児童代表挨拶 ④学校代表挨拶
 ⑤民泊家庭自己紹介 ⑥教育委員会職員紹介 ⑦民泊家庭とのお互いの自己紹介
 ⑧閉会
 14：30 ～ 民泊家庭への移動
- (2) 2日目「八幡ウォークラリー」（雨天の場合：雨プログラムあり）（芸北小学校をのぞく）
 8：40～8：45 芸北文化ホールに集合
 前日にデジカメを渡しているグループからデジカメを回収する。
 児童到着後随時、学校毎に健康観察を実施する。
 朝民泊家庭で体温測定をしていない児童へは体温測定を実施する。
 8：45～9：10 バスで芸北高原の自然館に移動
 9：10～9：15 準備、整列
 9：15～9：30 ウォークラリー開会式
 ①挨拶（町教委）②全体への指導並びに安全指導・確認 ③スタッフ及びボランティアの紹介 ④4 ウォークラリー説明、持ち物のチェック（ペットボトル配布）
 9：30～11：30 ウォークラリーに出発
 ※スタートは3グループに分かれ、5分ずつずらす。スタートが後のグループは待ち時間の間に町教育委員会作成の「きたひろクイズ」をとく。（最初のグループはゴール後の待ち時間にとく。）
 ※各チェックポイントを目指し散策（約3.4km）する。チェックポイントではガイド、自然館職員と写真を撮影する。
 ※ウォークラリーで一番気に入った場所の写真撮影する。
 ※指定された場所（しおりの見本で場所を探す）での写真撮影（2箇所程度）をする。
 ※3つのチェックポイントでは、各自説明を受ける。
 ※チェックカードが8枚ある（ひらがな1文字：うち3枚はチェックポイント箇所）ので、探してしおりに記入し、最後に8文字で言葉を作る。
 ※11時40分までにすべての班が山麓庵に到着する。
 チェックポイント：①牧野富太郎句碑、②高原の自然館、③霧ヶ谷湿原
 ※帰着後、引率教諭は体調確認を行うこと
 11：45～12：00 ウォークラリークイズ大会
 12：00～12：25 昼食（活動班ごと）
 12：30～13：10 ウォークラリーの振り返り
 13：15～13：25 バス移動の準備（持ち物確認、整列後駐車場へ移動）
 13：25～13：45 バスで芸北文化ホールへ移動
 13：45～13：50 民泊家庭への受け渡し
 ※芸北文化ホールにバス到着後、随時受け渡し実施
 ※前日にデジカメを渡していない民泊班にデジカメを1台渡し、児童に活動の写真を撮ってもらう。

芸北小学校

- 各家庭～10：30 民泊家庭の自家用車でどんぐり村そば道場へ
 10：15～10：30 児童到着後、活動班ごとに場所を決めて荷物を置く。
 児童到着後随時、健康観察を実施。
 （朝民泊家庭で体温測定をしていない児童へは体温測定を実施）

10：30～13：20 そば打ち体験進行（体験時間約1.5時間）

①開会 ②児童代表挨拶 ③指導者より挨拶 ④そば打ち体験 ⑤昼食 ⑥片付け
⑦児童代表挨拶 ⑧指導者より挨拶 ⑨閉会

13：20～13：30 バスで豊平地域づくりセンターへ移動

13：30～15：30 藍染体験進行（体験時間約2.0時間）

①開会 ②児童代表挨拶 ③指導者より挨拶 ④藍染体験 ⑤昼食 ⑥片付け
⑦児童代表挨拶 ⑧指導者より挨拶 ⑨閉会

15：35～ 民泊家庭への受け渡し

民泊家庭の迎えを待ち、来た順番に随時受け渡し実施

（4）3日目「川魚つかみ取り（釣り）体験」

各民泊家庭ごとに、芸北文化ホールに集合。児童到着後、ホール後方に荷物を置く。

前日にデジカメを渡しているグループからデジカメを回収する。

8：40～9：00 準備・整列（民泊家庭ごと）

9：00～9：40 お別れ式

① 北広島町代表挨拶（役場支所長等）

② ウォークラリーでの各賞の発表・表彰

② 各民泊班から一言（民泊家庭で行った体験について、発表してもらう）

③ 学校代表あいさつ

④ 閉会

※お別れ式閉会后、写真撮影を行う。（全体集合写真→各学校毎→民泊家庭毎）

※民泊家庭との個別の挨拶は各自で行う。

※写真撮影の指示は町教委が行う。

9：40～9：50 バスに乗って大暮養魚場へ移動

9：50～10：05 到着、整列

※バスで大暮養魚場に到着後、活動班ごとに整列。

※児童の準備物はしおりを参照

10：05～13：00 川魚つかみ取り体験進行

【開会】

①開会②児童代表挨拶③指導者より挨拶

【大暮養魚場スタッフ進行】

④養殖の説明・施設見学⑤炭おこし⑥つかみ取り【1人2匹】

⑦アマゴ調理（割箸を使ってはらわたを出す）

※調理中に気分が悪くなる可能性があるので、事前に体験内容の説明をしてもらう

⑧炭火で焼く⑨昼食（アマゴ2匹、おにぎり、味噌汁）⑩片付け

【閉会】

⑪児童代表挨拶⑫指導者より挨拶⑬閉会

※活動班に分かれて活動する。

※魚を焼く囲炉裏は、各班で1つ使用。（最大12人程度座れる広さあり）

※雨天の場合は、屋根がついているところを利用

○体験時間に余裕があるので、児童主体で進めていくといい。（タイミングを見てスタッフがサポートする）

13：00～13：05 休憩・活動班ごとに整列 ○持ち物の確認をすること。

13：05～ 各校へ出発 ～ 帰校 ※バスで各学校に帰る。

芸北小学校

各家庭～8：45 豊平地域づくりセンターに集合 児童到着後、会議室後方に荷物を置く。

8：45～9：00 準備・整列（民泊家庭ごと）

9：00～9：20 お別れ式

9：20～9：50 バスに乗って大暮養魚場へ移動

9：50～10：00 到着、整列

10：00～13：00 川魚つかみ取り体験進行

13：00～13：10 休憩・整列（活動班ごと）

13：10～ 帰校

5 会場・準備物等

（1）開会式・閉会式

【町教委】

・横看板『北広島ふるさと夢プロジェクト（小5）「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～』

(2) 活動（ウォークラリー、そばうち体験、藍染体験。川魚つかみ取り体験）

○当日までの準備・対応

＜各学校＞

- ・デジタルカメラ（各学校最低1個は持参）
- ・救護用品＜簡易バッグ＞
- ・探検バッグ（ウォークラリー、川魚つかみ取り体験で児童がメモをする用）

＜観光協会＞

- ・スポーツドリンク配布（ウォークラリー、藍染体験時配布）

○児童の持参物・服装

- ・ガムテープ等によく見えるように、学校名・名前を書き、胸前にはる。
- ・筆記用具・水筒・タオル・帽子・軍手・はきなれた靴・水に濡れてもいい靴
- ・カップや傘（状況に応じて各学校ごと前日に指示）
- ・敷物
- ・服装一体操服上下

※ウォークラリー時は長袖長ズボン、川魚つかみどり体験時は半袖半ズボン、ぬれてもよい靴

(3) 昼食

【観光協会】弁当

○2日目（ウォークラリー）の昼食

○3日目（大暮養魚場）の昼食

(4) 費用について

全体 23,469 円 （個人負担：6,000 円 町補助：17,469 円）

【重要】キャンセル時の費用負担について

キャンセル料について、民泊実施前日（11:00 まで）までに教育委員会へ連絡があれば、キャンセル料はかからない。ただし、民泊実施前日 11:00 を過ぎた場合、キャンセル料がかかる。キャンセル料については個別に相談させていただきます。

【共有】引率者（教職員）の食費、宿泊費（希望者）について（注文された方のみ）

昼食代として、2日目弁当 780 円、3日目大暮養魚場昼食 1,210 円がそれぞれかかる。宿泊費は実費。（後日学校ごとにまとめて請求）

※宿泊費は各学校毎に出張処理とする。

6 役割分担及び安全管理・安全指導（計画策定委員会を中心に企画・準備）

○保護者通知（八重小→各学校） ○体験活動のしおり（八重小→各学校）

○安全についての指導（各校で事前学習を行う）

・交通安全・生活安全（動物・植物等について、熱中症等）・災害安全（大雨・雷・洪水）

○割当に関して

- ◆学校間交流活動＜各グループで割当＞
- ◆対面式児童代表・学校代表挨拶＜各グループで割当＞
- ◆お別れ式児童代表・学校代表挨拶＜各グループで割当＞

○報告書製作（教育委員会・八重小）

- ◆プロジェクトのねらい
- ◆活動の内容・様子－写真入り、A4で2枚程度にまとめる。
- ◆記録用写真撮影＜各学校＞
- ◆作文＜各学校1人－400字原稿用紙で2枚程度＞
学校ごとに指導して製作し、データを教育委員会へ送付
- ◆活動の様子、作文は、1月9日までに製作してデータを送付
- ◆夢プロだより（民泊）は八重小担当・・・12月配布予定

7 提出書類・準備物等

提出する書類・事前学習や確認に活用する資料

【学校提出書類】

体験申込書・バス配車手配表・食事手配希望表・引率教員部屋割・民泊割当表・民泊家庭あて書類送付用リスト・体験の班分け・緊急時関係者連絡網・体験活動のしおり（児童用・指導者用各1部提出）・民泊家庭ブラカード

【学校で製作・活用】提出書類チェック表・持ち物チェック表

児童・保護者の準備物 ※出発時の服装については、各学校で協議する。

〔服装〕：長袖体操服（上下）、体操服かTシャツ（半袖・上）、赤白帽、はき慣れた運動靴

〔持ち物〕※その他、必要なものがあれば、各校で加える。

服装・着替え（基本）	日用品	その他
体操服（長袖2セット：1セットは当日着用、半袖1セット）	洗面用具（歯ブラシ・歯磨き粉）	カバン（多くの荷物が収納出来る大きめのもの）
帽子（赤白帽）	ハンカチ・ティッシュ（3日分）	ナップサックまたはリュックサック（水筒が入るサイズ）
靴下（4日分）	タオル（5～6枚）	虫除けスプレー・ジェル
運動靴（履き慣れたもの、水にも濡れていい靴：2足）	ビニール袋必要枚数（着替え入れ・ごみ袋として）	【※体に合うものを十分に用意】
上着類（1日分：3日目に使用）長袖・長ズボン（くるぶしまで隠れるもの）		虫さされ薬【※体に合うものを十分に用意】
下着類（2日分）シャツ・パンツ	【田舎暮らし体験・川魚つかみ取り体験用】軍手（滑り止めのない木綿製）3セット	熊よけ鈴
【川魚つかみ取り体験用】 半袖体操服かTシャツ・半ズボン	カップ・傘	水筒（ペットボトル不可）
		【田舎暮らし体験で使用】 エプロン・三角巾
【川魚つかみ取り体験用】 濡れてもよい運動靴かシューズ（サンダルは不可）		体験活動のしおり
		筆記用具
【民泊先での農業体験等で使用】長靴		常備薬（必要に応じて）
寝間着（ジャージ・パジャマ）		
体操服（長袖2セット：1セットは当日着用）		

※全ての持ち物に名前を書く。（袋にも名前を書いておくこと）

8 ご協力をお願い

【事後指導】

○民泊家庭に対し、事後学習の際に、手紙や色紙等でお礼を言える機会の検討

【アンケート（児童・保護者）】

◆実施後に、ねらいの達成度や児童の思いを把握したりするためのアンケートを実施

・ふるさと夢プロジェクト事業児童及び保護者アンケート（Google フォーム）※事前に学校共有

9 その他

○プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させる。

○保護者案内は、提出日を目安に学校ごとに製作して配布する。

○特別な支援を必要とする児童、健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、教育委員会とも連携を取りながら引率職員体制について配慮する。学校側で必要があると判断した場合、児童提出書類提出時に早めに共有を行う。

参考～令和6年度からの主な変更

☐ 民泊体験は夏休み期間中に実施

☐ 児童数調整のための学校の組み合わせ変更

☐ プログラム変更

・1日目 昼から対面式 ・2日目 八幡ウォークラリー、民泊体験

感染防止・安全対策ガイドライン（民泊用）

【児童・先生】

- ①発熱・咳・寒気・悪寒・筋肉痛・頭痛・のどの痛み・味覚または嗅覚の異常等の感染症状を旅行実施前と旅行実施当日および民泊前日に確認してください。
- ②家庭到着後に症状が現れた場合、その時点で民泊家庭から離れて医療機関にて診断を受けてください。
- ③児童には①の条件を徹底し、併せて確認してください。
- ④滞在中の民泊家庭から（手洗い・うがい・社会的距離・マスク着用・その他）感染防止に対する指示があったときは、指示に従う事を事前に指導してください。
- ⑤児童・児童と受け入れ家庭の双方の命に関わることであり、虚偽の申告が絶対無いよう事前指導を徹底してください。
- ⑥事後確認として体験活動終了後3日以内に当該児童が新型コロナウイルス感染症陽性になった場合は、北広島町教育委員会に連絡してください。

【(参考) 受け入れ家庭 感染防止対策内容】

- ①手洗い用のプッシュ式洗剤、除菌用アルコール消毒液の用意
- ②フェイスタオルの人数分用意（滞在中個人管理とする）
- ③体温計を常備する。
- ④家族の健康状態を随時確認する。

【感染予防で気をつけること】

- ①洗面や手洗いの場所を定めておく。
- ②寝具については、使用前後に天日干しや布団乾燥機を利用し清潔にしておく。
- ③客間も使用前後に掃除機後に雑巾や畳拭き用ウェットシートにて拭き取ること。
- ④部屋の換気を必要に応じ適宜行うこと。（特に回数は求めない）
- ⑤食事の際、鍋料理・大皿盛り等のメニューにする場合は、自分の箸で大皿から取らず菜箸等の取り分け用のものを使用すること。テーブル上のパーテーションは各家庭が必要とした場合は使用する。

天候不良の場合

R7 民泊体験 緊急時対応フロー

天気予報や台風の進路・勢力、避難場所や避難経路を事前に確認

【体験プログラム中】

警報発令・警戒レベル発令、
災害が起きた場合

状況把握：教育委員会・農山村体験推進協議会・学校が連携し、対応する

児童の安全を確保

- 安全な場所（避難場所）の確保
 - （日中）プログラム時間の調整
 - 体験活動の継続について協議
- 警報が解除されず、今後悪化の見込みがあれば、活動の切り上げを含めて検討する

【民泊受入中】

警報発令・警戒レベル発令、災害が起きた場合

教育委員会の指示により、農山村体験推進協議会・学校・教育委員会が連携を取り、対応にあたる

児童の安全を確保

【民泊家庭】

- まずは落ち着いて避難の必要性を判断
- 避難が必要な場合は安全な手段で移動
- 避難しない（出来ない）場合は、家の中で最も安全な場所へ集合
- 教育委員会へ避難場所・人数・安否について報告

【教育委員会・農山村体験推進協議会】

- 避難の必要な地域への情報提供
- 避難者情報の取りまとめ
- 児童、受け入れ家庭の安否確認
- 可能であれば教育委員会・農山村体験推進協議会・学校で避難場所、家庭巡回

警報発令、台風が予測される場合

体験活動の実施について協議

- 現地情報の確認
- 体験活動を中止する
- 出発時間を遅らせる

等の検討

中止にした場合

安全に移動出来る段階になった時点で、各小学校・義務教育学校へ移動する

学校へ保護者の迎えを要請する

急病・怪我の場合

R7 民泊体験 緊急時対応フロー

救急患者発生

発熱及び
咽頭痛・頭
痛・倦怠感
がある

怪我など

休養が必要

緊急を要する

状況把握:教育委員会・農山村体験推進協議会・学校が連携し、対応にあたる

受診する

○かかりつけ医または最寄りの医療機関に相談し、指示を受ける
○医療機関を診する
・移動は公用車を使用
日中:教職員が同行、
夜間:グループ責任者が同行

連絡・報告(状況報告)

担任(管理職):保護者へ
管理職:学校、教育委員会へ

症状無
(怪我等)

症状有

経過をみて民泊体験の可否を教育委員会・農山村体験推進協議会・学校で連携して判断

連絡・報告

担任(管理職):保護者へ連絡し、場合によって迎えを依頼

休養する

場所 日中:体験先
夜間:民泊家庭
グループ責任者が到着するまで
民泊家庭が付き添う

状態が悪化

受診する

○医療機関に連絡し受診する
・移動は公用車を使用
日中:担任・養護教諭が同行
夜間:グループ責任者が同行

救急車を要請する

日中:担任・養護教諭が同行
夜間:グループ責任者が同行

連絡・報告(状況報告)

担任(管理職):保護者へ
管理職:学校、教育委員会へ

救急車を要請する

日中:担任・養護教諭が同行
夜間:間に合えばグループ責任者、難しければ民泊家庭が同行

連絡・報告(状況報告)

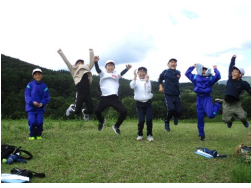
担任(管理職):保護者へ
管理職:学校、教育委員会へ

発熱等の症状がある場合や検査結果が陽性だった場合等は学校をつうじて保護者へ迎えを依頼

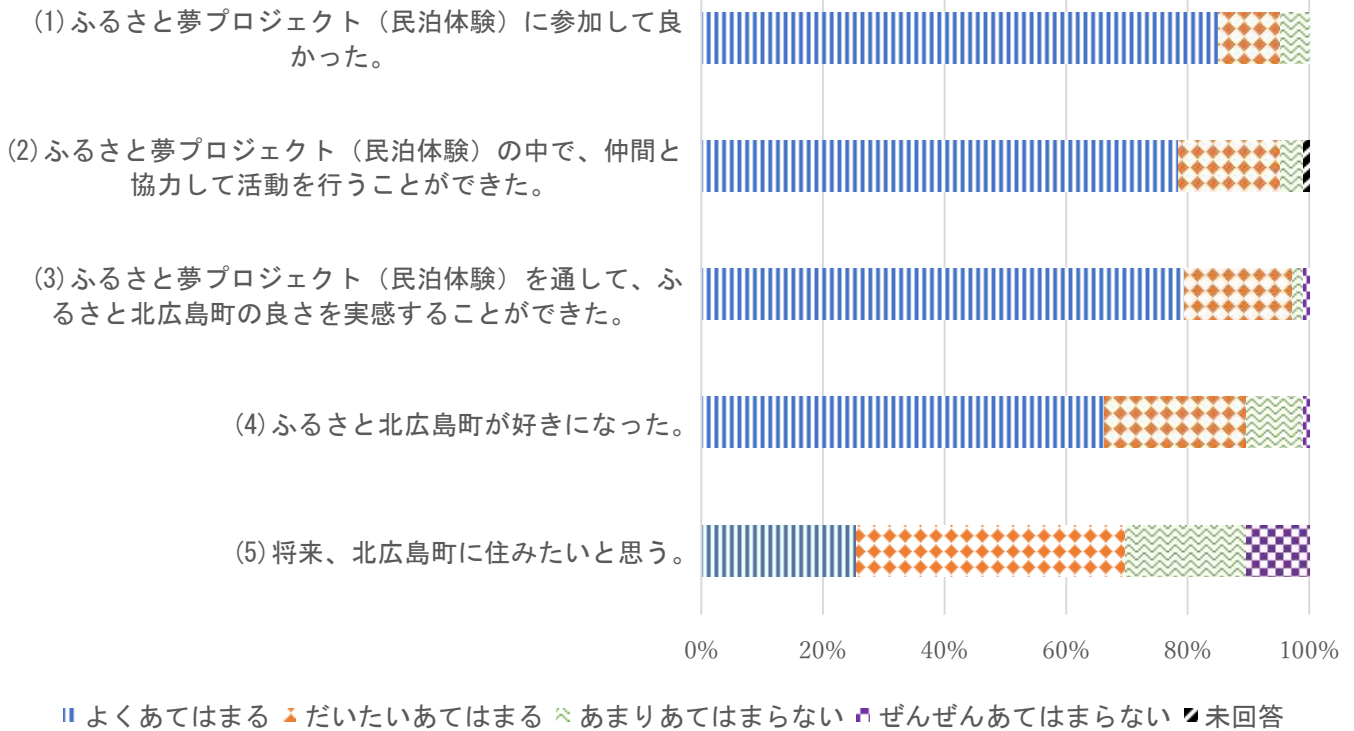
受診後の連絡・報告(管理職:学校、教育委員会へ)

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」の活動の様子

活動内容	活動の様子
【Aグループ】（八重小・八重東小）7月23日～7月25日 「八幡ウォークラリー」 2日目は、芸北高原の自然館の山麓庵を出発点にして、牧野富太郎博士の句碑や霧ヶ谷湿原を巡るウォークラリーを実施しました。 芸北ならではの豊かな自然を味わいながら、グループのみんなと協力して、たくさんのミッションをクリアすることができました。 「川魚つかみ取り体験」 大暮養魚場では、自分でつかみ取りした魚を下処理しました。命のありがたみを感じました。 「捕まえる」「下処理をする」「焼いて食べる」すべて自分たちで行いました。普段ご飯を普通に食べていることは決して当たり前ではないということに気づくことができました。	    
【Bグループ】（芸北小）7月29日～7月31日 「民泊体験」 民泊家庭では、ジビエのハンバーグやウインナーづくりに挑戦しました。 初めてのことで貴重な体験をたくさんさせていただきました。 民泊家庭では、料理を教えていただき、友達と料理を作りました。みんなで作った料理は最高においしかったです。民泊家庭では、これまでに経験したことのないことをたくさん体験させていただきました。準備をしていただいたことに感謝です。お別れの時には少し寂しくなりました。 「そば打ち体験」 そば打ち体験は初めてでした。そば道場の方がとても丁寧に教えてくださりおいしいそばができました。 「川魚つかみ取り体験」 大暮養魚場では、アマゴのつかみ取りをしました。みんなあっという間に捕まえることができました。 3、4年生の時、火起こし体験をしていたので、まず、木を組んで、マッチ1本で火を起こすことができました。	    

	活動内容	活動の様子
	【C グループ】（壬生小・本地小）8月20日～8月22日 「民泊体験」 民泊先家庭では、いろいろな体験活動を用意していただきました。夕食づくりでは、野菜の収穫から調理をさせていただき、おいしさをより感じることができました。 「八幡ウォークラリー」 八幡地域に行き、ウォークラリーをしました。仲間と励まし合いながら様々なミッションをクリアすることができました。 「川魚つかみ取り体験」 大暮養魚場では、民泊で初めて出会った友達とも協力して川魚のつかみ取りや下処理、火起こしに挑戦しました。 「命をいただく」ことへのありがたさを感じながら、美味しくアマゴを食べました。 ヤマメとアマゴが混ざらないように、放流する川を分けていることや、チョウザメの飼育への挑戦など、大暮養魚場の魅力を施設の方から詳しく教わることができました。	      
	【D グループ】（大朝小・豊平学園）8月27日～8月29日 「民泊体験」 民泊家庭では、夕食を協力して作ったり、キーホルダーを作ったりなど、各家庭でたくさんの体験をすることができました。 「八幡ウォークラリー」 八幡地域に行き、ウォークラリーをしました。様々なミッションにチャレンジする中で、仲間と協力する大切さや芸北の自然の豊かさを学ぶことができました。 「お別れ式」 お別れ式では、一緒に過ごした3日間を振り返りながら、感謝の気持ちを伝えるとともに、また伺いたいと名残を惜しんでいました。 「川魚つかみ取り体験」 大暮養魚場では、アマゴのつかみ取りをしました。下処理をし、焼いて食べました。苦労したぶん、とてもおいしかったです。	      

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（5年）



民泊体験・田舎暮らし体験をして、思ったこと考えたことを書いてください。

芸北小学校

○芸北サーモンのえさやりが楽しかった。
○藍染体験で布にきれいな藍色に染まってうれしかったです。
○また、北広島町でできる野菜はとても美味しいことがわかった。

○いろいろな動物にえさをあげたりしたりそば打ち体験をすることができてよかったです。
○しものさんの家でバームクーヘンづくりが楽しかったです。
○民泊家庭で、野菜の袋詰めをしたことが楽しかった。

大朝小学校

○美味しくなった野菜を取るのがとても楽しかったです。
○ピザや天ぷらを最初から作ってみて（小麦粉から）どうやって作るのか分かりました。
○魚の内臓を出すのが難しかったです。けれど内臓の取り出し方がよく分かりました。
○仲間と協力して、田舎のよさや色々な事を知れたから、民泊を楽しく過ごせれることができた。
○私が、普段あまりしない料理づくりをみんなで協力して頑張ることができて良かったです。また、花火をしたりカラオケをしたり楽しみました。そして、自分たちで自主的に民泊家庭の家の周りを走ったり起きたりできて良かったです。
○民泊体験をして、いつもは体験できないことをみんなと一緒に体験することができて良かったと思いました。

○みんなと楽しく、協力して畑仕事や料理などができたので良かったです。
○畑仕事でハウスに入ったら暑くてびっくりしたことです。
○民泊家庭の畑で野菜を取って、その野菜を使って料理を作ったことがあまりなかったから楽しかったと思いました。
○やった事の無い物の方が多かった。みんなとご飯を作った、みんなと遊んだ、みんなでピザを焼いた、みんなで餃子を焼いた（包んだ）、みんなでログハウスに行った。
○自然をたくさん感じられて楽しかった。自然のことがたくさん知れた。
○田舎の自然を体験してとても楽しかった。
○田舎暮らしはとても楽しいな。
○仲が深められたこと。

○自然を満喫することができて、とても楽しかった。 ○みんなと協力してご飯を作ったりして楽しかった。協力しあえた。 ○地域のこと（芸北の宮本さん宅付近）がよく知れました。	○民泊家庭の方に、森の中にあるログハウスに連れて行ってくださったとき、すごく涼しくて森の中なのにこんなに涼しいと知って、びっくりしました。 ○みんなと協力してできたので良かったです。 ○友だちと協力して過ごせたので良かったと思った。
八重小学校	
○仲間と過ごす大切さや、自然の中で活動することの楽しさを改めて実感しました。 ○みんなで協力できてよかった。 ○友達といっしょに遊んで活動できて良かったと思います。 ○地域の方がすごい苦労していることを知りました。 ○民泊体験をして仲間と交流できて、良かったです。 ○違う小学校と絆が深められてとても嬉しかったです。 ○自然が豊かで空気が美味しかったです。 ○すごく、みんなと協力できたしみんなとの仲が深まったので良かったと思いました。 ○皆で花火をしたことが、楽しかったです。また、行きたいです。 ○芸北の方は夏の暑い中、夜でも昼でも涼しいんだなと思いました。 ○温かい地域の方たちと、交流ができて、とても良かったです。	○吉川さんや友達とみんなで料理をしたことがなかったのでとても楽しかったです。 ○普段できないことをできて楽しかった。 ○谷本さんが優しく接してくれて嬉しかったし、安心な気持ちになりました。 ○民泊で思ったことは、民泊体験でいろいろな暮らしを考えました。 ○楽しかった。 ○とうとうさんのいえでかわにはいってさかなとったのが楽しかった。 ○普段しないことをできたのでいい経験になって良かったと思います。親と離れて過ごしたのが、初めてだったので少し不安でしたがみんなが協力してくれてすごく楽しめました。 ○最高の思い出になったし田舎の良いところももっとわかったし勉強にもなってとても楽しかったです。 ○田舎のことがよく分かった。
八重東小学校	
○親の人は大変なことを毎日やっているのだから民泊でやったように手伝ってあげたいです。 ○田舎暮らしをして、料理づくりをしたり野菜を取ったりして、貴重な田舎体験ができたなと思いました。 ○いつもはできない体験ができたので良かったです。自然を感じられることができました。 ○田舎体験をしてみて、自然の大切さや、自然に恵まれていることを改めてしれた。自然のものを探したりすることで普段気にしない自然も、魅力的に見えてきた。 ○田舎では都会とは違う暮らしをしていた。犬の散歩をして外を歩くのもいいと思って学校から帰っても散歩してみたいです。 ○民泊家庭の方と花火をしたり、風車を作ったりして楽しい思い出をたくさん作った。	○民泊体験では不安なことがたくさんあったけど、行ってみるといろんなことがあってすごく楽しかったです。 ○民泊家庭では、犬がいて犬が好きな私はすごく嬉しかったです ○民泊体験：田舎暮らし体験して花火をしたり天ぷらをあげたりピザを作ったり楽しかったです。 ○芸北は涼しくて快適でした。それに風車を作るのが楽しかったです。 ○虫の声などで自然の良さを実感できました。 ○田舎暮らしをして、山の涼しさが知れた。 ○自然の空気が多く楽しいところがいっぱいあり、料理もできました。また行きたいなと思いました。 ○トンボがたくさんいて自然がある町の良さに気づきました。

壬生小学校	
○他の学校のひと、協力してできました。 ○緑の大切さを知った。 ○とても心優しいなと思った。 ○釣りしたことが楽しかった。 ○みんなで協力するということが良く身についたと思いました。 ○たくさんやることがあって、大変だった気持ちもあったし、楽しかった気持ちもあった！ ○壬生と違って芸北はすごく田舎だった。けど病院やお店があまりないのは不便だけど田舎だけでしか体験できないことができて嬉しかった。 ○田舎は、水や植物がこんなにきれいとは思っていないほど美しかったです。 ○田舎の人が家でしていることを知ることができたし、みんなと協力して料理をすることができて、とても楽しかったです。 ○民泊でお世話になった人や、自分の学校、他の学校の人たちと協力でき、たくさんのひととコミュニケーションが取れて楽しかった。 ○住むのは大変だと思いました。 ○泊めてくださる方がとても優しくったからうれしかった。	○昔の人は、とても大変だったんだなと思いました。また、友達のことをもっと知ることでもでき仲がふかまりました。 ○田舎は優しく面白く尊敬できる人ばかりで自然の豊かさを噛みしめることができました。 ○すごく楽しかったです。 ○昔は、今みたいに便利ではないから、とても勉強になった。 ○こういう機会があっても楽しい！ ○家族以外のひととも一緒にくらして、どんな感じが分かった。 ○夜の友達との思い出ができた。 ○初めての体験で初めは緊張したけど、なれると意外に楽しい。 ○民宿先のところは、クーラーがなくてすごく暑かったです。みんなでハンバーグやお味噌汁をつくったこともたのしかったし、朝の散歩のときすごく自然がきれいびっくりしました。田んぼに牛がいるのもびっくりしました。楽しかったです。 ○ゲームがないから楽しくないと思っていたけどとても楽しい2日だった。 ○協力は大事だと思った。
本地小学校	
○民泊でバーベキューをした時に、みんなで楽しくもり上がったので嬉しかったです。 ○コースターを作るのがむずかしかったけど、楽しくできた。 ○ご飯がおいしかったです。 ○自分で料理をするのが楽しかったです。友達と一緒に寝たのが楽しかったです。 ○暑かったけど、畑仕事を手伝ったり焼肉で火おこしをしたりして、頑張った。	○また行ってみたい。 ○田舎暮らしで、コロッケを作ったり畑仕事をしたりしたのが楽しかった。 ○全部楽しかった。特に、コロッケを作ったことが楽しかった。 ○畑で野菜をとって、BBQでその野菜を食べたら、思った以上においしかったです。 ○みんなでコースターやご飯を作って楽しかった。
豊平学園前期	
○芸北はこんないいところなんだと思った。 ○田舎では畑仕事をしたりして楽しかったです。 ○みんなと協力してとてもいい思い出になった。 ○いつも大変なんだな。 ○とても静かだった。	○色々な家庭の仕事を体験できた。 ○初めてまったく知らない人の家に泊まったのでとても緊張しました。 ○原さんのように、もっと優しくなりたい。 ○自然は大切だと思いました。

○自然のよさをしれた。 ○田舎暮らしは楽しいと思った。 ○田舎でしかできないことができてよかった！ ○民泊体験は初日はとても緊張していたけど進んでいくうちに楽しくなっていった。 ○生活の仕方は違う。	○自然のことを知れてよかった。 ○楽しかったし3人しかいなかったけど楽しかった。 ○まだまだ自分たちの知らない場所などはたくさんあり、その中でも自然はたくさんあるんだなと思いました。 ○いろんな活動を体験することができてとても楽しかった。
--	---

体験活動（川魚つかみ取り体験・八幡ウォークラリー ※芸北小学校は、そばうち体験と藍染め体験）をして、心に残っていることはどんなことですか。	
芸北小学校	
○アマゴのつかみ取り。 ○つかみ取りで魚をたくさん取ったことです。 ○そば打ち体験が楽しかったです。	○藍染体験で染めるのが楽しかったです。 ○アマゴを頭から尻尾まで食べられることがわかりました。
大朝小学校	
○見つけた魚にゆっくり近づいて取るのがすごく難しかったです。 ○八幡ウォークラリーをして活動班の人と協力してガイドさんの話を聞いてクイズを解いたことです。川魚つかみ取り体験で心に残っていることは魚を手でつかむことと内臓を取りだすことです。 ○ウォークラリーで、暑い中仲間と協力して成功できたことが心に残っている。 ○川魚つかみ体験では、最初取れるかなと心配してたけどやってみると楽しく思っていたよりも取れてよかったです。ですが、アマゴの逃げ足が早くすこし大変でした。豊平学園の人たちとあまり馴染めず少し大変だったけどだんだん仲良くなれて嬉しかったです。 ○川魚つかみ取り体験で、魚を焼く火をみんなで協力してつけたとき。 ○魚を美味しく食べれたので良かったです。 ○八幡ウォークラリーでどこにどんな施設があってどんな歴史があるのかを知ることができた。 ○川魚を1匹も捕まえられなかったのが、今度はたくさん取りたいです。 ○みんなと協力して、歩ききれたことが、心に残った。	○川魚つかみ取り体験で、みんなと協力して魚の内臓を取ったり、焼いたりしたことが心に残っています。 ○つかみ取りは、魚がヌルヌルしていてつかみにくいかったけど取れたことです ○ウォークラリーは、自然と触れ合ったことで、川魚のつかみ取り体験は、とれたての川魚を塩焼きにして食べたことがなかったのが、心に残りました。 ○＜八幡ウォークラリー＞・みんなと協力できた・みんなと仲良くなった・みんなと運動できた・みんなとご飯を食べた・みんなと話したクイズを解いた ○＜川魚つかみ取り体験＞・魚の大切さを知った・みんな炭を起こした・みんなと協力できた・みんなと魚を焼いた・びしょびしょになった・内臓などを自分で取った ○みんなと魚を食べたこと。 ○ウォークラリーをしたときに、豊平学園の人とは、あったことがなかったけれどいろいろなクイズをみんなが解いたりして豊平学園さんと仲を深めることができたことです。 ○みんなと協力できた。 ○八幡ウォークラリーで保存館の歴史が心にのこっています。
八重小学校	
○八幡ウォークラリー：活動班のみんなと協力して全部のチェックポイントをまわったこと。川魚つかみ取り体験：みんなで火をつけたり魚を焼いたりして食べたこと。 ○川魚つかみどりでとれなくてくやしかった。 ○おいしい。	○魚のつかみ取りをして班のみんなと協力しておいしく魚を食べてうれしくなりました。 ○川魚つかみで取ったりしたことが心に残りました。 ○川魚のつかみ取りで、命の大切さを学びました。 ○食べたのがうまくてここにのこってます。

○魚のつかみ取りでみんなで取り組んで食べて嬉しかった。 ○魚つかみ取り体験は、魚を育てるのに苦労しているのを知りました。 ○ウォークラリーがとても暑くて大変でした。 ○魚を何匹か取れて嬉しかったです。 ○魚を初めて捕まえたときの爽快感です。 ○川魚のつかみ取りです。とってもぬるぬるしていて、取りにくかったけど取ったときの達成感が、気持ちよかったです。 ○魚の内臓をグリグリするのが、楽しいし、食べて美味しかったです。 ○川魚つかみ取り体験です。	○川魚つかみ取り体験でお味噌汁やご飯をみんなが協力して運んでくれてとっても嬉しかったです。 ○ウォークラリーでは、自然のいろいろなことをしれました。つかみ取りでは瞬発力が早くなった気がしました。 ○魚を焼いてみんなで食べたことです。他の学校の人とも協力して仲が深まっていい思い出になったなと思いました。 ○私が一番心に残っているのは魚のつかみ取りです。理由はみんなで協力して魚を取るのが楽しかったからです。 ○活動班の友達とつかみ取りをして協力やゆずり合いができたので良かったです。
八重東小学校	
○八幡ウォークラリーでみんなと協力してスタンプを集めた。 ○協力して八重小の人達と仲良くできたことです。 ○ウォークラリーが、あまり意味がわからなく、時間が、足りませんでした。それ以外は暑かったけれどとても楽しかったです。 ○魚のつかみ取りで、命の大切さを改めて知った。 ○ウォークラリーの道がわからなかった。花火をして楽しかった。 ○ウォークラリーが辛かった。おーいの丘以外行けてよかった。 ○命の大切さをしれた。ヤマメを解剖するのが辛かった。 ○魚のつかみ取りは全然取れなかったけど美味しかったです。ウォークラリーは道にまよったときもあったけど楽しかったです。	○ウォークラリーは距離が長くてきつかったです。魚のつかみ取り解剖するのが怖かったです。 ○魚のつかみ取りで一匹も捕まえれなくて少し悲しかったけど楽しかったです。 ○ウォークラリーで言葉を見つけるときや魚のつかみ取りでみんな分あるように頑張ったりして協力できました。 ○班の中で仲良くできました。 ○ウォークラリーをして、ミッションを行動班で楽しく解いたのが心に残っています。 ○みんなと協力してウォークラリーを進められました。夢の魚のつかみ取りができた。 ○ヤマメを串刺しにするのが怖かった。ウォークラリーで探しながら自然を感じることができた。
壬生小学校	
○みんなで魚を取って焼いたことです。 ○自分でとって自分で味付けをした魚がとても美味しかった。 ○大暮に行けたこと。 ○初めて魚のつかみ取りをしたので、楽しくて思い出に残っています。 ○川魚のつかみ取りで、魚がヌルヌルであまりうまく掴めなかったこと！ ○本当に楽しかったこと一択です。 ○芸北には、色々な生物や動物がたくさんいることを知りました。 ○アマゴのつかみどりをしたことが心に残りました。	○みんなと魚を食べられたこと。 ○自然の美しさや楽しさを初めて知ることができた。魚のつかみ取りが怖かったけれど、いい経験になった。魚に対してのありがたさを感じることができた。 ○川魚のつかみ取りは、最初すごく怖かったけど、(掴むのが)一匹だけ掴めました。その後内臓を取るとき・・・本当に食べ物の大切さを感じました。 ○魚を焼いて食べたこと。 ○魚のつかみ取りが1番楽しかったです。 ○みんなと協力してクイズに答えたことや命の大切さを学んだことです。 ○楽しかったです。

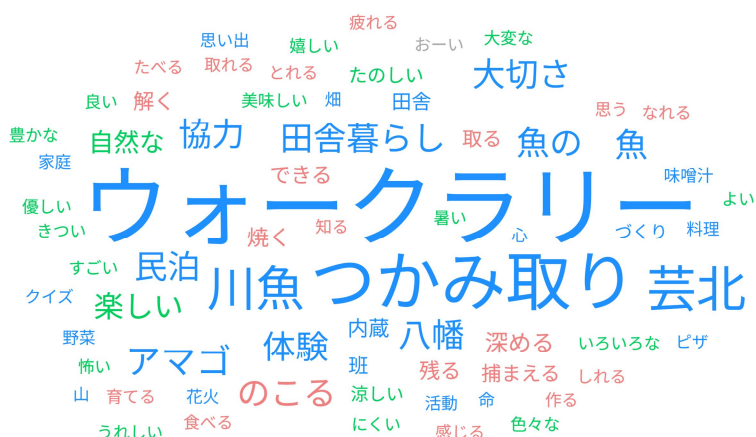
○つかみ取りは初めてしたので少し怖かったけど、頑張って取ったことが心に残っています！とても美味しかったし、達成感がありました。 ○ウォークラリーで、ただ山を登るだけでなく、ミッション性にしたところが面白く、最後に、山の生物の博物館に行ったのが楽しかったです。	○都会では体験できないものばかりで、特に印象に残っているのはウォークラリーで周りが山や森の緑ばかりだったことです。魚のつかみ取りはみんなで「あと何匹取ればいいね！」などみんなで協力してできたから良かったです。
本地小学校	
○アマゴのつかみ取り体験が心に残っています。特に自分でさばいて、焼いて食べたことです。 ○ウォークラリーで暑かったけど、がんばって歩いた。 ○ウォークラリーが楽しかった。 ○八幡ウォークラリーは歩くのがつかれたけれど、終わった後すごい達成感がわいてきました。川魚がさいしょはこわかったけれど、なれてきたらどんどんとっていました。 ○魚をとるのは大変だったけど、焼いて食べたらおいしかったこと。	○川魚のつかみどりをして、たくさん魚をとったこと。 ○ウォークラリーで歩くのがけっこうつらかったけど、がんばって全部の場所に行けたこと。 ○全部楽しかった。特に、壬生小の人と友達になったこと。 ○火起こしができなくてマッチ全部無くなったけど、他のチームのマッチを借りたら火がついて嬉しかったこと。 ○魚がヌルヌルしていたけど、焼いて食べたらおいしかったこと。
豊平学園前期	
○魚を頑張って育てていること。 ○魚のつかみ取りで多くの魚を捕まえて楽しかったことです。 ○火をつけることに苦戦したこと。 ○アマゴが芸北にいっぱいいる。 ○仲間と協力できた。 ○魚を自分の手でとれたこと。 ○川魚つかみ取り体験で、火をつけたりつかみ取りをしたこと。	○ウォークラリーで活動班と一緒に行動したこと。 ○とても疲れたことです。 ○八幡ウォークラリーでみんなでお弁当を食べたこと。 ○魚のつかみ取りで魚を焼いたりするのが心に残りました。 ○魚のつかみ取りが楽しかった。 ○川魚はヌルヌルしていて掴みにくかったけど、岩の下などに隠れていることがわかって、捕まえたとき、すごく嬉しかった。

児童のアンケートから

右の図は、民泊後に実施したアンケートで、児童が記載した感想をテキストマイニングしたワードクラウドと呼ばれる図となる。繰り返し出てきた単語が大きく表示される。

「ウォークラリー」「つかみ取り」「川魚」など、体験についての感想がキーワードとして多く挙げられていた。

初めての環境で田舎暮らし体験を行い、その中でふるさと北広島町のよさを改めて感じる機会になった。



民泊での貴重な体験

芸北小学校 壽老 惇

ぼくはこの民泊をととても楽しみにしていました。豊平地域づくりセンターに到着するまでは、とても緊張していました。下野さんとの対面式が終わると、緊張もほぐれてきました。

ぼくが、特に心に残ったことは、ご飯づくり、ヤギの乳しぼり、大暮養魚場でのアマゴのつかみどりです。ご飯づくりでは友達と協力して作ることができましたが自分で考えて動くことがあまりできませんでした。ヤギの乳しぼりも初めは難しくうまくできませんでした。慣れてくると上手にできるようになりました。

頑張ったことはご飯づくりのソーセージづくりです。なぜなら慎重にやらないと羊の腸が破れてしまうので、真ん中にうまくいくようにしなければいけなかったからです。友達と声を掛け合ったり、協力しながらやったりするとうまくいきました。

大暮養魚場では、アマゴのつかみどりから火おこし、調理など、グループのみんなと協力しなければうまく進まないことがたくさんありました。火をおこす場面では、三、四年生の総合的な学習でやった「火おこし」の体験を思い出し、友達とまず木を組みました。声を掛け合いながらやるとあっという間に炭をおこすことができました。これらのことから友達との協力が大切だということを学びました。自分でも協働する力が付いたと思います。

今回の民泊では、これまで経験したことのないことをたくさん経験することができました。貴重な体験となりました。特に民泊家庭の方には、たくさんの準備をしていただきとても楽しかったです。これからの学校生活でも、協働する力を活用して頑張っていきたいです。

民泊体験の思い出

大朝小学校 中前 妙恵子

8月27日から3日間、民泊体験をしました。わたしが特に思い出に残っていることは、民泊家庭での活動と川魚つかみ取り体験の二つです。

民泊家庭での活動では、友達や民泊家庭の方とたくさん交流できました。わたしが特に楽しかったことは、三つあります。一つ目は、犬の「カイ」君の散歩です。友達と交代でリードをもって散歩ができてとても楽しかったし、「カイ」君がとてもかわいかったです。二つ目は、雲月山に行ったことです。車で連れて行ってもらいました。山の上から見ると、宮本さんの家が「ポツンと一けん家」に見えてびっくりしました。そこから少し行くと島根県との県境があってみんなでまたぎました。とても楽しかったです。三つ目は、ピザを作ったことです。粉からこねて作るのがとても大変でした。生地をのぼすとちぎれそうになってむずかしかったです。自分の好きな具をのせて焼いてもらって食べるととてもおいしかったです。みんなとたくさん交流することができていい思い出ができました。そして、いつも家族にしてもらっていることの大切さも実感しました。

川魚つかみ取り体験では、命の大切さを学ぶことができました。魚は、泳ぐのが速くてつかまえるのが大変でした。命を守るために必死ににげる魚の気持ちが伝わってきました。内ぞうを取るためにわりばしをさすと血が出てきて少しかわいそうでした。自分で取った

魚を食べるととてもおいしかったです。命をいただくことの大切さがよく分かりました。

この民泊体験を通して、ふだん家族がしてくれていることの大切さと命の大切さについて考えることができました。これからは家族の一員としてたくさんお手伝いしたいです。また、命をいただくことに感謝しながらご飯をしっかりと食べたいです。

民泊体験の思い出

八重小学校 岡崎 翔

民泊の3日間で、僕が一番楽しかったのは、2日目のことです。

2日目はウォークラリーをしました。最初に注意など説明がありました。その後、みんなで協力してクイズや文字を探すのをがんばりました。歩きながらクイズの答えを考えるのは楽しかったです。長そで長ズボンでとても暑くて、みんなすごくつかれていました。でも、山、景色、生き物など見たことのないものばかりでした。普通では見られないめずらしい「アカショウビン」という鳥も、教えてもらいました。いつかアカショウビンを見てみたいです。

ウォークラリーから帰って、3時からじゃがいも掘りに行きました。とてもでかいじゃがいもがいっぱいとれました。じゃがいもは、僕が見た中で一番大きかったです。僕の顔くらいの大きさのじゃがいもが10個以上ありました。帰りに原さんが作っているトマトを食べました。トマトぎらいの僕でもいっぱい食べられました。トマトはとてもおいしくて、世界で一番おいしいトマトだと思いました。

夜は陶板焼きとポテトチップスを食べました。自分たちで掘ったじゃがいもで作ったポテトチップスは、市販のポテトチップスよりも、何百倍も美味しかったです。

僕たちの班は、3日間ずっと元気に過ごす事ができました。体調が悪くなる人が一人もいなくて、みんな元気に参加できました。全員がそろっていたからこそ、心に残る思い出づくりができました。

家族のみんなへ、準備をしてくれてありがとうございました。おかげで、とっても楽しい民泊になりました。これからは、民泊で学んだことを活かして、周りのことを考えて行動します。

民泊の振り返り

八重東小学校 米田 愛望

私が民泊で心に残ったことは、受け入れ家庭の人が、家族のように受け入れてくれたことです。慣れていなかった環境だったけど、受け入れ家庭の人が、自然のことを、教えてくれたり優しく接してくれたりしたので、いろいろなことを知ることができました。

また、友達と一緒にいた中で、友達の意外な一面も知ることができました。友達の寝相や、パジャマの模様が意外と普段の雰囲気と違うことも知りました。受け入れ家庭の方と友達でウノとジェンガをしました。とても楽しかったです。次の日の朝、家から出るときに時間がギリギリだったのも面白かったです。

民泊前は家族と別れるのがちょっと不安だったけど、友達や、受け入れ家庭の人が一緒に楽しんでくれたので、不安がなくなって良かったと思いました。

活動班で活動するときには、色々なクイズや、山のことについて分かりやすく学べまし

た。魚のつかみ取りでは、魚がヌルヌルして、つかみにくかったから、取れないかと思ったけど、三匹取れたから楽しかったです。そのあと行動班でいっしょに、魚の内臓をとりました。そのあとに、魚を焼きました。追加で、おにぎり三つと、みそ汁をもらいました。魚を食べたとき、外はカリッと、中はふわっとしておいしかったです。骨はあったけど美味しく食べることができました。命をいただくことは、どれだけ大切か分かりました。

この民泊体験で、自然の素晴らしさや、命をいただくありがたさを学びました。また、民泊でやったことは家族が毎日やってくれていると思うと、本当に家族への感謝や嬉しさでいっぱいになりました。このことを忘れずに、これからの生活でも活かしていきたいと思います。

民泊体験の思い出

壬生小学校 石井 創馬

初日の交流会では、友達と話ができるか不安でしたが、自分のチーム以外の友達ともたくさん話すことができました。

2日目のウォークラリーでは、2時間以内に問題も全て解き、みんなでゴールすることができ、とてもうれしかったです。

最終日の魚のつかみ取りでは、火をつけるときに、初めはこんなの簡単だと思っていたが、やってみるととても難しかったです。魚の内臓を初めて取ってみて、するするときれいに取ることができ楽しかったです。みんなで取って、調理して食べることができ、とてもおいしかったです。

民泊の3日間で、僕が一番思い出に残っているのは、宿泊先での田舎体験です。田舎体験では、野菜の収穫の仕方や調理の仕方など、色々なことを教えていただきました。夜に友達とトランプをしたり、朝いつもは早く起きることが苦手だけど、少し早く起きて犬の散歩をしたりと友達と楽しく過ごすことができました。

お別れの会の時は悲しすぎて少しパニックになってしまいましたが、それぐらい僕は楽しい時間を過ごすことができました。3日間で学んだことをこれからの生活でも生かしていきたいと思います。

民泊を終えて

本地小学校 田中 葉和

私は、民泊に行って楽しかったことが3つあります。

1つ目は、女子のみんなと泊まったことです。コースターやはしおきを作り、絵をかく自分だけのコースターを作ったのはとても楽しかったです。ご飯を作った時は、後片付けや机をふくのが大変でした。「いつも親がこれをやっているんだな。」と実感しました。お風呂に入っている時に、先生たちが来たので、慌てて服を着替えたらず前後逆になっていたのも思い出です。

夜、寝る時に虫がいて、1時間くらいキャーキャー言いました。友達が虫を外に追い出したけど、その後2時間くらい眠れませんでした。

2つ目は、ウォークラリーをしたことです。班のみんなと頑張って、協力しながら回りました。終わった後、みんなはつかれきっていました。むさしのお弁当を食べる時、室内で食べていたら途中から雨が降ってきたので、「室内で食べて正解だったな。」と思いました。

3つ目は、魚のつかみ取りをしたことです。はじめはこわかったけど、軍手をつけてやってみるととても楽しくてびっくりしました。

最終的に班で20匹捕まえることができました。アマゴを焼いて食べたら、身が柔らかくて、塩がついていておいしかったです。

今回の民泊は、最高の思い出になりました。北広島町のことを深く知れてよかったです。機会があれば、家族で魚のつかみ取りなどに行ってみたいです。

楽しかった民泊体験活動

豊平学園前期 山本 朝陽

民泊体験活動1日目は、芸北文化ホールで大朝小学校と交流しました。貨物列車やフラフープを使った遊びで仲を深めることができました。稀馳君という友達もできました。対面式で自己紹介後、民泊家庭先の小川さんの家に行きました。そこで、畑仕事をしました。すごく大きな畑で、たくさんの野菜が育ててありました。夜ご飯は、とれたてのじゃがいもを使って、コロッケを作りました。とてもおいしかったです。夜は、友達とトランプをして楽しく過ごしました。

2日目は、八幡湿原でウォークラリーをしました。大朝小学校と一緒に班での活動でした。班の人と話したり、協力したりして、たくさんのミッションをクリアしました。芸北高原の自然館では、北広島にはブッポウソウという鳥がいることを知りました。いっぱい歩いたのでつかれたけど、楽しかったです。小川さんの家に帰って、焼肉の準備をしました。畑でナスやオクラなどをしゅうかくして焼いて食べました。班のみんなや小川さんとお話ししながらの焼肉はとても楽しかったです。

3日目は、大暮養魚場に行きました。アマゴや鮭について種類や育て方などを知ることができました。そして、アマゴのつかみ取りをしました。すばやくてヌメヌメしていたけど、つかまえることができました。アマゴの内ぞうを自分達でとったけど、とてもむずかしかったです。つかまえたアマゴを焼いて食べるために、火起こしもしました。時間がかかったけど、火が起こせました。アマゴはとてもおいしかったです。アマゴの命に感しゃしたいです。

2泊3日の民泊体験でいろいろなことを知ることができたし、体験できました。民泊家庭の方々やスタッフの方々、大朝小学校、豊平学園の友達のおかげで、最高に楽しい3日間になりました。

6 年 生

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔6年〕実施計画

～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 1 日時 令和7年9月30日（火） 9:30～13:55
 2 場所 KumahiraPark 北広島（千代田運動公園（総合体育館 多目的広場））
 〒731-1515 広島県山県郡北広島町壬生 10500 Tel 0826-72-8822

3 目的

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
 - ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
 - ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。
- ※上記の目的や日程・グループ等ついて、各校で事前指導を行っておく。
 ※今年度も有観客とする。

4 対象児童 小学校・義務教育学校6年生（5月1日現在）

	芸北小	大朝小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平学園	計
男子	4	5	16	12	5	3	9	54
女子	5	5	13	7	10	6	11	57
児童数計	9	10	29	19	15	9	20	111

◇養護教諭は豊平学園前期1名が参加。（参考：R6 豊平学園、R5 新庄小・本地小、R4 新庄小）
 但し、応急対応グッズは各校で持参する。

5 日程

（1）各学校より会場への集合 ※バスは発車時間の10分前には到着予定で調整済

町教育委員会がバス会社に予約済み、停車場所等については各学校で各バス会社と確認。

- ①芸北小 [8:30 発] →KumahiraPark 北広島[9:15 着]
 <小型バスー総企バス>（児童9名+引率者）
- ②大朝小 [8:35 発] →KumahiraPark 北広島[9:15 着]
 <中型バスー大朝交通>（児童10名+引率者）
- ③八重小 [9:00 発] KumahiraPark 北広島[9:15 着]
 <大型バスー八重タクシー>（児童29名+引率者）
- ④豊平学園 [8:35 発] →本地小 [9:00 発] →KumahiraPark 北広島[9:15 着]
 <大型バスー総企バス>（児童27名+引率者）
- ⑤壬生小 [9:00 発] KumahiraPark 北広島[9:15 着]
 <小型バスー八重タクシー>（児童15名+引率者）
- ⑥八重東小 [9:00 発] →KumahiraPark 北広島[9:15 着]
 <中型バスー八重タクシー>（児童19名+引率者）

（2）全体会・活動の流れ

各学校よりバスでKumahiraParkに到着後、2階の観覧席に荷物を置いて1階のフロアに集合する。

※早く到着した学校は、できるだけ奥より詰めるようにする。

※講演会が見える側の観覧席は地域の方が座る為空けておくこと。（テープ等で区切っておく予定）

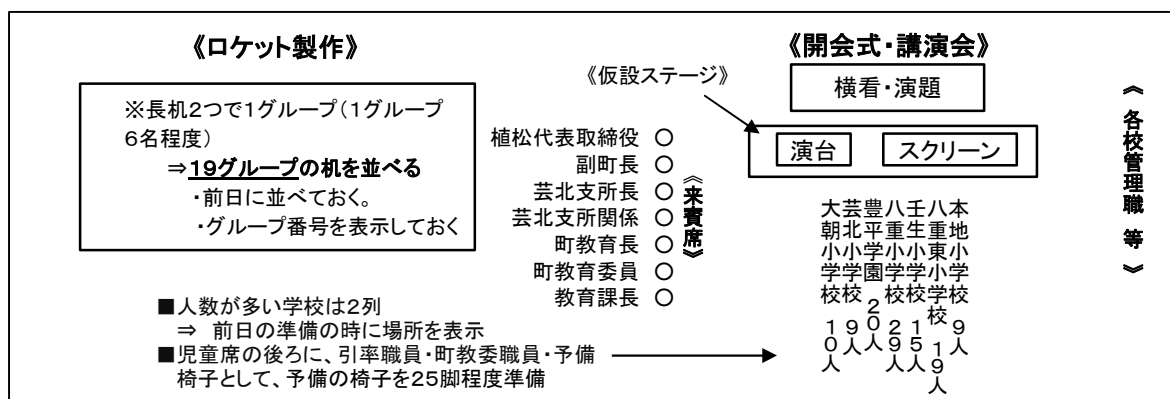
□持参した屋内シューズに履き替えて2階へ（くつはビニール袋等へ入れて持っておく）

□水筒（お茶）を持って1階に集合。講演会はメモなどを取らない。

◆開会行事（9:30～9:45）ー総合体育館（講演・ロケット作りも）

<司会進行ー大谷教諭（壬生小）・町教委>

児童の並び（開会式・講演会は椅子に座って）



【活動の流れ】

(1) 開会行事 (9:30～9:45)

- ①開会挨拶 (応援隊副隊長 (副町長)) ※町教委が連絡調整をする。
- ②校長代表挨拶 (担当校長代表 [武本校長一芸北小]) ※講師紹介を含む
- ③来賓紹介 (司会進行) ⇒西部教育事務所芸北支所長
(来賓紹介はないが、当日はサポートとして社会教育委員も来られる予定)

(2) 講演会 (9:50～10:50) …株式会社植松電機の植松努代表取締役による講演会

- ・メモなどは取らずに、開会式の並びで講演を聞く。

(3) 休憩 (10:50～10:55) ※トイレ、水分補給等

(4) ロケット製作 (10:55～12:00)

- ・ロケット製作をする各学校のグループ机に移動し、指導を受けて製作 (グループ表示あり)。
- ・引率職員は、自分の学校の児童を中心にに関わり、必要に応じて製作の支援をする。
- ・製作後、講師を囲んで記念写真—体育館の2階より撮影 (町教委)

※昼食・休憩・移動—学校ごとにアリーナの2階で弁当を食べる。

※ロケット製作中、講演会ステージは町教委で撤収する。

(5) ロケット打ち上げ (12:50～13:45) —多目的広場—

- ・マイクまたは拡声器は町教委で準備。
- ・帰りのことを考え、荷物を持って指示される場所に集合する。
- ・職員は、安全に発射できるよう児童の指導や役割分担の仕事を行う。
- ・児童は4グループに分かれ、各グループで2列に分かれて打ち上げる。
<1～4グループ (24人)、5～9グループ (30人)、10～14グループ (30人)、
15～19グループ (27人)>

(6) 閉会行事 (13:45～13:55) —多目的広場— ※学校ごとに集合し並ぶ

①閉会挨拶・謝辞 (担当校長代表 [藤田校長一壬生小])

②児童代表挨拶 [豊平学園] ※過去の実績参照

<参考:過去の児童代表校>

R6 八重東小、R5 本地小、R4 大朝小、R3 芸北小、R2 壬生小、R1 八重小、H30 新庄小、H29 新庄小、H28 豊平小、H27 八重東小

※株式会社植松電機 植松努代表取締役に最後に挨拶をしていただく (町教育委員会が事前に確認)

※閉会式後、各学校グループごとバスに乗り、14:00に千代田運動公園を出発する。

◎雨天・強風等の天候不良のために、ロケットの発射ができなかった場合は、昼食を食べて13:15に千代田運動公園を出発し学校へ帰る。後日、学校でロケットを発射する。

(小雨程度であれば実施するようにする)

6 会場・準備物等

(1) 開会式・講演会

【町教育委員会】

○横看板

北広島ふるさと夢プロジェクト (小6)
夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう

○演題

演題

夢は招く

～夢があればなんでもできる～

講師 株式会社植松電機 代表取締役

植松 努 先生

○演台 (パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台)

○プロジェクター ○スクリーン ○パソコンと接続出来る音響用スピーカー など
パソコン (マック) は講師が持参する。

【KumahiraPark 北広島】

○音響装置（マイク・スピーカー等） ○椅子ー170 脚程度

(2) ロケット製作

【町教育委員会】

○長机ー42 台

製作に使用する道具が 6 人 1 セットで用意されているため、6 人が向かい合わせで 1 つのグループ（2 台で 1 グループ）になるようにテーブルを配置する。

＜19 グループ⇒38 台 準備用の机も必要なので、合計で 426 台程度必要＞

○マジック〔油性〕

■黒 111 本ー児童一人に一本 <町教委が購入>

【学校】

○グループ分けの確認 ※事前に、児童にグループ番号を知らせておく。

○マジック〔油性〕を持参（色が 6 色等セットになっているもの）

■6 色等がセットになっているマジック〔油性〕

ーグループごと最低で 3 セット、全体で最低 57 セットは必要。

(3) ロケットの打ち上げ

【町教育委員会】

○安全な発射、多目的広場の安全確保のためのサポート員（10 人程度）

○これまでに各校に配布されている発射台やスイッチ等は持ち寄らなくてもよい。

(4) 予算・会計

【町教育委員会】

《株式会社植松電機》

○モデルロケットキット代（消費税別）

小学生以下・・・3,000 円／1 人 111 人分

○交通費、宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく、株式会社植松電気規定の往復料金が必要。（後日まとめて請求あり）

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

7 報告書作成について

○実施後に、ねらいが達成度や児童の思いを把握するために、アンケートを実施。児童アンケートは、集計の負担減、効率化の観点から「Google フォーム」で作成（町教育委員会）

【実施後の児童アンケートについて】

10 月 7 日(火)までに「Google フォーム」で回答する。（報告書や夢プロ便りの資料とするため）

○次の内容の「報告書」を作成する。

業務改善の観点から「夢プロ便り」（A3 一枚）を活用して報告書を作成する。

(1) 講演の感想（120 字程度）	①【芸北小・大朝小】
(2) ロケット製作の感想（120 字程度）	②【壬生小】
(3) ロケット発射時の画像	③【アップ：八重東小、ルーズ：本地小】
(4) 打ち上げの感想（120 字程度）	④【八重小・豊平学園】

※10 月末に「夢プロ便り」の原稿が仕上がった時点で、町教委、「夢プロ便り」担当の江崎校長、6 年ロケット担当の武本校長とで調整する。※過去①②③④がローテしている。R8 は上から④①②③

8 役割分担など

担当学校を中心に分担。

○株式会社植松電機・講演講師との渉外（町教育委員会）

○講師の昼食（町教育委員会）

○バス会社と連携（町教育委員会）

※事前に、町教育委員会が各バス会社に依頼 駐車場所の確認は学校毎

○保護者通知文（町教委作成⇒各学校配付）

○会計（町教育委員会）

○全体会に関わって

◆全体会進行 <大谷教諭〔壬生小〕・町教委>

◆開会式挨拶 <武本校長〔芸北小〕>

◆閉会挨拶・謝辞　＜藤田校長〔壬生小〕＞

◆児童代表挨拶（閉会）＜大谷夢歌（豊平学園）＞　◇記録写真＜各自＞

※9月13日までに児童挨拶者を決める。

○担当者　＜町教委―松長　芸北小―武本校長＞

○夢プロ便り　＜八重小―江崎校長　芸北小―武本校長＞

9 留意事項

○プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させる。安全な実施ができるように事前に各学校で指導をしておく。

○服装は各校の通常の通学服とする。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具＜傘、カッパ・レインコート等＞を持参する。

○特別な支援を必要とする児童、健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、引率職員体制について各校で配慮する。

○前日の9月29日（月）13時より、会場準備等を町教育委員会職員と一緒に行うので、各学校1名以上の職員の参加。町教育委員会は、午後から準備。

⇒依頼の文書は、町教育委員会より送付

○授業時数カウント（案）…学校行事2h、総合的な学習2h、図画工作1h、学級活動1h

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

令和7年9月30日（火）、北広島町内の6年生児童（111名）を対象に“北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」”を開催しました。

北広島町・北広島町教育委員会と各小・義務教育学校は、次のことを目指してこの事業に取り組んでいます。

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することの素晴らしさを学ぶ。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。

今年で11年目を迎え、これまでも6年生が学びそして体験してきており、児童たちがとても楽しみにしている事業です。今年度も北海道から植松先生をお招きし、町内の小学校6校・義務教育学校1校の6年生がKumahiraPark 北広島に集まっての講演会並びにロケット製作を実施しました。

植松努代表取締役講演会 演題「思うは招く～夢があれば、なんでもできる～」

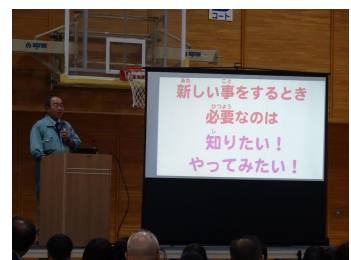
植松先生は、小さい頃からの夢であるロケット製作を実現するために、ロケットとは関係のない小さな会社で夢と希望を持ってロケットづくりを始められ、その後、幾多の困難を乗り越え、民間では偉業ともいえる宇宙を飛ぶロケット開発を成し遂げられました。児童たちは植松先生のユーモアと感動のある話に引き込まれ、将来への夢や希望をもって努力することの大切さを学び、他では得ることができない多くの力強い「言葉」をいただきました。その一例を紹介します。

- 夢はたくさんあった方が叶いやすい。たくさん夢を持とう！ ○奇跡を起こせるキーワード「ちがうはすてき！」
- 人の出会いには意味がある。人は出会うことで簡単に変わることができる。
- お金があったら本を買おう。本には人生が詰まっている。 ○「どうせ無理」は自信と可能性を奪う最悪の言葉
- 新しいことをするために必要なのは「知りたい！」という心
- 夢をかなえるために、自分の夢をどんどんしゃべろう！
- 未来はわからない。だから未来をあきらめる理由はない。

講演を聞いた児童の感想

植松さんの話で心に残ったことは、「夢はどんどんしゃべろう」というキーワードです。私は、今まで自分が思い描く夢が人に笑われたり、否定されたりしないかと、とても不安でした。しかし、植松さんが話された「夢はどんどんしゃべろう」というキーワードを聞いて、これからはいろんな人に夢をしゃべっていき、自分と夢が同じ人や、似ている人を見つけていきたいと思います。

植松さんは、「あきらめないことの大切さ」を教えてくださいました。私は今まで「どうせ無理」と思ってあきらめてしまったことがあります。「あきらめなかったら夢はかなう」というお話を聞き、「あきらめず最後まで頑張ってみよう」と決めました。夢の実現に向けて頑張ります。



他校の同級生と協力して、夢のロケット完成！

ロケット製作は、基本的に自分達の力で行います。説明書を見ながら、児童たちは製作しました。他校の児童と一緒にグループ編成だったので、最初は緊張した様子でしたが、時間が経つにつれて協力しあう様子がみられました。

ロケット製作・発射の様子



ロケット製作・発射の児童の感想

最初は緊張したけど、他校の友達が話しかけてくれて雰囲気が和らぎました。これからは自分がそういう雰囲気を作れるようになりたいです。ロケット作りを通して、学校は違っても同じように頑張る仲間として一緒に活動できて良かったです。

班のみんなで作ったからこそ、失敗せず高く飛ぶロケットができたと思います。初めは緊張して不安だったけどだんだん打ち解けてきて楽しみながら作ることができました。これからも初めて会う人たちと話すときに緊張することもあると思うけど、勇気を出して話してみようという気持ちになりました。

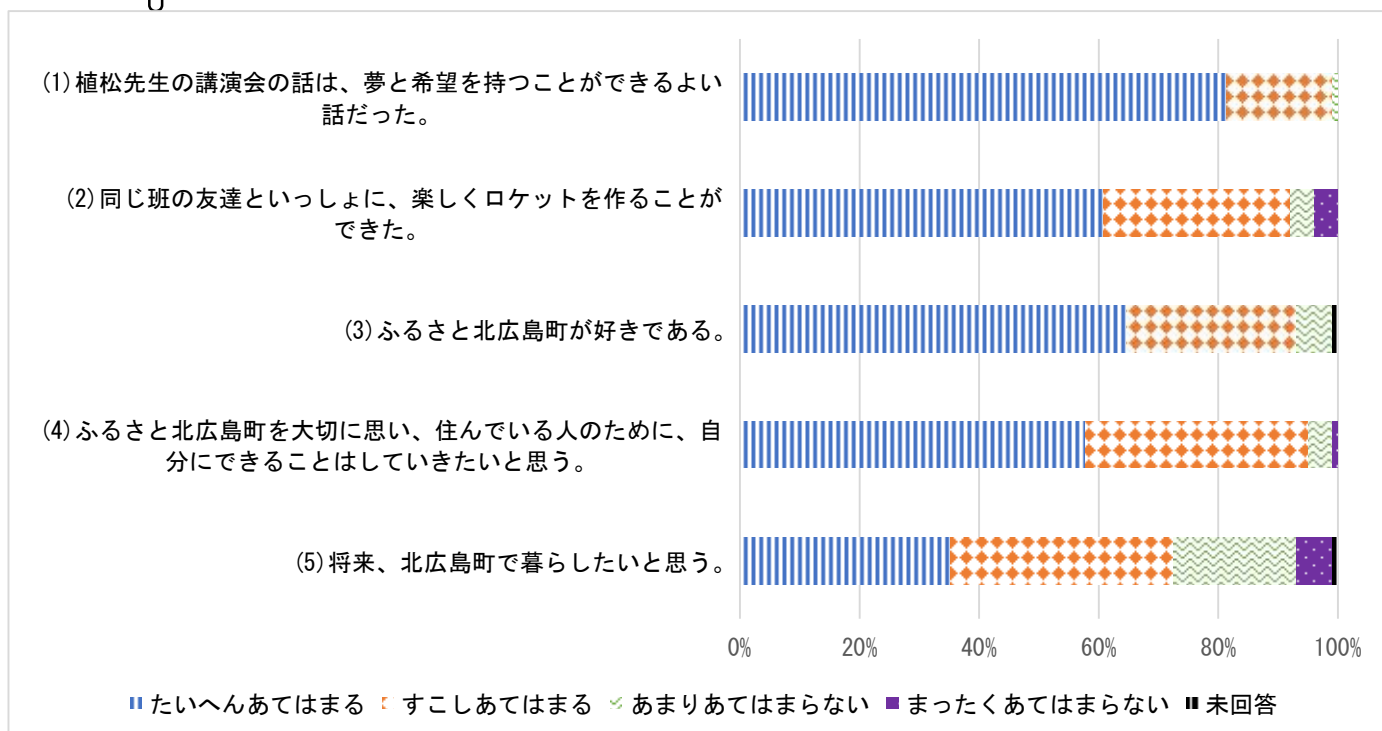
ロケット発射の時、みんな、不安だったと思います。ロケットが飛んだ瞬間に不安は消えて、達成感や自信が湧いていました。みんなで助け合ったり、発射の成功を願ったりする気持ちが結果につながったのだと思います。植松先生から学んだ大切なことをずっと忘れずにいたいです。

僕はロケットを打ち上げる時まで、正直自分が作ったロケットが飛ぶのか心配だったし、緊張していました。しかし、いざロケットを飛ばしてみると思ったよりも速いスピードで高く飛び、綺麗にパラシュートが開いて、降りてきました。空高くまで飛んで嬉しかったです。

児童のアンケート結果から（詳細は次ページ以降参照）

参加した児童たちのアンケートでは、「(1) 講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった」「(2) 友達と一緒に楽しくロケット作りをすることができた」「(3) ふるさと北広島が好きである」「(4) ふるさと北広島町を大切に思い、住んでいる人のために、自分のできることをしていきたい」の項目で肯定的評価が90%を超えた。また、「(5) 将来、北広島町で暮らしたいと思う」の肯定的評価は72%となり、昨年度のアンケート結果から向上がみられた。昨年より若干高い数値となっており、本事業を通して、ふるさと北広島町への愛着心が育ってきているといえる。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（6年）



講演会のお話を聞いての感想や思いを自由に書いてください。

芸北小学校

○夢を持ち、人に伝えることをしたいと思った。
 ○自分の夢を否定されても夢はあきらめないことが大切だと思いました。
 ○夢や希望を持つことを大切にしたい。否定されても自分らしく生きる。
 ○植松さんの話で、「夢をどんどん語ろう」というキーワードが出てきて、今まで私は夢を話したら否定されたりしないかと不安でした。でもこれからは、周りの人に夢をどんどん話していき、夢が同じ仲間や、似ている仲間を探したいなと思います。

○自分の本当にやりたい夢を家族などに言えないでいて悩んでいたけど、否定されても恐れずに話してみようと思った。植松さんの話を聞いていつでも諦めずに希望を持てる自分にかわれた。
 ○話全体で思ったのが、人は経験をするからです。理由は、諦め方を教えるのも、植松先生のお話も、全部、経験があるからできることだと思ったからです。だからぼくも、これからいろいろな経験をしていきたいです。
 ○思うは招くという言葉が心に残った。最初から無理とは思わずに何でも挑戦してみようと思った。

大朝小学校

○夢は諦めないでずっと追いかけていくとその夢は達成出来るんだということがわかるお話でした。
 ○夢を諦めずに最後まで追いかけていきたいと思いました。
 ○いろんなことに挑戦してみたくなった。
 ○諦めないことは大切だと思いました。
 ○植松さんの話を聞いて、植松さんはすごいなと思いました。

○失敗してもいいということがわかりました。
 ○植松さんが面白く、わかりやすく教えてくださったので楽しく学べた。
 ○植松さんの話を聞いて、本をしっかりと読もうと思った。
 ○夢は諦めたらいけないことだと知れました。
 ○ロケットを飛ばすときなどに夢を乗せたらもっと良い自分になれると思いました。

八重小学校

○夢を諦めていたけれど、植松さんの話を聞けて夢と希望を持つことができました。

○今後の人生にいかせたらなと思いました。

○きつかった眠かった、だけど面白かったし良かった。

○夢を持つことができた。

○夢と希望を持つことができました。

○自分の夢や、目標を持つことができた。

○所々面白いところがあって飽きなかったです。

○僕も夢や希望を持つことに自信が持てました。

○植松さんの話にとっても心を打たれました！私も植松さんのような立派な人になります！！

○自分も好きなことをしてもいいとわかりました。とてもお話が面白かったです。北海道から来てくださりありがとうございました。

○夢を何があっても諦めないでいようと思いました。とても良かったです。

○植松さんの話は希望や夢を持てる大変いい話でした。ありがとう植松さん。

○思いは招くという言葉が心に1番残りました。

○夢を沢山持つことができるようになった。ありがとうございます

○自分は大きな夢ばかりを求めていたけど、小さくて簡単な夢でもあったほうが良いと聞いたので、次の日からお母さんに食べたいご飯を伝えてそれを叶えるためにお手伝いや掃除（叶えるための努力）をしています。いい経験になりました。

○自分は「今」に自信がなかったけど、話を聞いて「自分は自分」と思えるようになりました。

○夢を何個も作ってもいいと教えていただいたのでこれからは夢を増やして行きたいです。

○植松さんが言ってくれた話は本当に全部心に残ってます。学校とかでなんかあったときにも時々植松さんの言葉を思い出すときがあります。ほんとにありがとうございました！！

○夢は頑張れば必ず叶うという言葉にすごく感動しました

○自分で自分を他の人と比べてしまうことがあったけど話を聞いて自信ができました。これからはいろんなことを頑張っていきたいです。

○私は、植松さんのお話で自分の夢をどんどん話していこうと思いました。

○私は、一番「思いは招く」と「人の出会いには意味がある」が心に残りました。なぜかという、思いは招くはずと夢や目標など思い続けることで、努力をして、その夢や目標などが達成できると思ったからです。人の出会いには意味があるは植松さんと出会ったことに意味があるのかもしれないし、将来であった人から夢をもらうかもしれないからその言葉が心に残りました。

○僕はフレンチの料理人になりたいと思っているので、強く思いを持って夢を叶えていきたいと思いました。ありがとうございました。

八重東小学校

○「思えば招く」という言葉を大事にしていきたいです。

○植松さんと似ているところは、紙飛行機が好きという所です。「思えば招く」いい言葉だと思いました。

○僕は[思えば招く]って言葉がいい言葉だなんて思いました。

○話してる人の熱意を感じたからすごいと思った。

○類は友を呼ぶなどいろんなことを聞いて色んな人との交流の大切さを学んだ。

○人と人の出会いが人生を生むということがわかりすごいなと思いました。

○心に残った言葉を思い出して将来の夢につなげていきたいと思った。

○夢や目標を持つことが大切だと思った。

○夢を持つのは自由なんだなと思った。

○改めて、夢や希望を持つということは大事ということがわかった。

○植松さんはロケットがとても好きなんだなと思った。

○思い出に残るような話だった。特に心に残った言葉は、思いは招くという言葉です。

○何事にも諦めずに挑戦し続けたらいいことが起こるということがわかった。

○植松さんの話をきいて自分は夢を諦めようとしていたけど、この話をきいて諦めたくないという気持ちが蘇ってきました。

○僕は、人生そんな事があるのかと思ってしまう話が何個もあったのでびっくりしました。

○講演会話を聞いて、「出会う人によって人生は変わる」というのが素敵だなと思いました。

○話を聞いて夢を持つことの大切さを知れました。	○夢を諦めないことが大切だとわかりました。
壬生小学校	
○植松さんの講演を聞いて「自分なんて…」とか「どうせ無理…」などを思わないようにしようと思いました。 ○植松さんの話を聞いて「夢はあきらめない」という言葉を大事にしようと思います。 ○社会の厳しさや今の現状を知れました。 ○夢に向けて努力したり、夢を諦めないようにしようと思いました。 ○自分の夢を諦めないようにしようと思いました。 ○自分の夢や、希望などを考えることができました。 ○もし、自分だけじゃできないことでも、誰かといれば何でも出来るや、諦めなければ何でも出来ることなどを聞いて、諦めずに一生懸命に取り組んだりしようと思いました。 ○失敗は、成功のもとという言葉が心に残った。 ○話を聞いて夢をたくさんもって、たくさん話していいんだという気持ちになりました。これからは、夢をたくさんもって、それに向かって頑張りたいと思いました。	○僕は、いろんなことにすぐ諦めることが多いので、植松さんの話を聞いてすぐには諦めずにちゃんと努力していこうと思いました。 ○自分の将来の夢を叶えることは難しいと思っていて叶うか不安だったけど植松さんのお話を聞いて少し自信を持てました。 ○夢をたくさん持つ、やりたいことがあったらやる、知りたいことは調べる。無理だと思わない、言われても気にしない。 ○私は、自分に自信が持ててなかったけど、植松さんの講演を聞いて、自分は自信を持ってもいいんだと改めて思いました。 ○植松先生は担任の先生などに将来のことを「あなたには無理だ」など色々言われても諦めずに色々頑張ってすごいと思いました。 ○「夢」という言葉を何度も聞いて、小さなことでもいいから沢山の「夢」を持とうと思った。
本地小学校	
○植松さんの話をきいて夢を諦めないで叶えるまで頑張ろうと思った。 ○夢は諦めずに自分で叶えようと思った。 ○新しい道ができました。諦めてはいけないことが分かりました。	○自分も夢を諦めず、語っていこうと思った。 ○植松さんが言っていたことを思い出しながら生活していこうと思った。 ○諦めずに挑戦をすればいいんだなと思いました。 ○本を学ぶが心に残った。
豊平学園前期	
○夢は持ったほうがいい。 ○元気をもらった。 ○植松さんのお話を聴いて、人に何を言われても諦めずに頑張ろうと思えるようになった。 ○本を読むようになった。 ○自分の今の夢を実現させようと思った。 ○自分の将来についてよく考える機会になった。 ○自分の夢をみんなに伝える。 ○人生は、人にどうのこうの言われても諦めない。 ○色々な人と話し、解決することが大切という言葉が心に残った。 ○私は、将来社会の役に立ちたいと思っていたけど、正直社会の役に立つってどういうことだろうと思っていたけど、植松先生の話聞いて自分の夢は諦めたりしないことが大切だと思いました。	○これからは夢を大事にしたい。 ○自分の将来の事について考えることができた。 ○本をたくさん読もうと思いました。 ○植松先生みたいに夢を諦めずに歩んでいきたいなと思いました。 ○思うは招くということが心に残った。夢を諦めずにいようと考えられた。 ○この夢プロをやってくださりありがとうございます。 ○他の学校の人と仲良く出来てよかったです。 ○自分の抱いた夢は、無理だと言われても諦めなくていいことがわかった。 ○将来の夢などの貴重な話をさせていただき自分の夢にも希望を持てたので本当に素敵で良い体験になりました。

○これからは夢を大事にしたい。	○本を買いたいと思った。
-----------------	--------------

ロケット作りをしての思いや感想を自由に書いてください。	
芸北小学校	
○自分が作ったロケットがうまく飛んだのでよかった。 ○将来自分も夢を叶えるぞと打ち上げるときに思いました。 ○ロケットを打ち上げるときは達成感があった。不器用だとずっと思っていたけどやればできるのだと感じた。 ○ロケット作りでは、他校の生徒と話し合って協力して、上手に作ることができました。また、打ち上げを試みたら高く飛んでとても達成感がありました。	○ロケットが飛んだときに、自分はどんなに辛いことがあっても必ず乗り越えられると思った。このことをきっかけに諦めかけた夢にもう一度挑戦しようと思った。 ○ロケットづくりでは、いろいろな人と話すことができました。 ○自分でもロケットを作り打ち上げることが出来たという自信につながった。
大朝小学校	
○達成感があって打ち上げてよかったと思った。 ○自分が作ったロケットが上手く飛んでいたから嬉しかった。 ○うまく飛んで楽しかった。 ○自分が作ったロケットが飛んでいて嬉しかったです。 ○パラシュートが開くか心配だったけどパラシュートが開いてホッとしました。 ○初めてロケットを飛ばして遠くまで飛んでうれしかったです。	○打ち上げる前は、緊張でドキドキしていたけど打ち上げたあとは、成功して嬉しかったです。 ○新しい友だちとロケット作りもできたし、ロケットも想像以上に飛んだからびっくりした。 ○友達と協力して、ロケットを打ち上げることができてとても嬉しかったです。しかもちゃんと飛んでくれたのが心に残りました。 ○夢のことを考えることが出来た。
八重小学校	
○飛んでよかった。 ○ちゃんと飛ぶかわからなかったけれど、ちゃんと飛べて嬉しかった。 ○想像以上に飛んですごかったし楽しかったです 植松さんありがとうございました。 ○楽しかったです。 ○ロケット作りのときに友達が出来て嬉しかった。 ○自分が作ったロケットが本当に飛ぶのか緊張したけど飛んだときはとても嬉しかったです。 ○打ち上げ失敗しないかと心配しましたがとてもうまくいきました！またやりたいです！ ○自分で作ったロケットがあんなにも飛ぶと嬉しい気持ちでいっぱいになりました。ロケットを作る機会を与えてくださりありがとうございました。 ○わからないところは班の人で協力してロケットが作れてとても良かった。打ち上げがうまく行ってよかった。 ○自分でロケットを作って高く打ち上がったからとても楽しかったし嬉しかったです。	○最初は上手に作れるかも不安だったし、飛ばすときは飛ぶかな、パラシュート開くかなと不安だったけど、自分のロケットが空に飛んでパラシュートが開いたとき、「自分にもできた」と、嬉しかったです。 ○久々に会う友達や今でも喋る友達と一緒にグループで喋りながらできて楽しかったです。 ○自分のロケットが飛ぶかどうかドキドキしたけど無事飛んでくれてホッとしたし嬉しかったです。 ○上がらないと思っていたけど無事に上がったので嬉しかったです。 ○作るの難しかったし、飛ぶか不安でした。けど飛ばしてみたらちゃんと飛んで良かったです。めっちゃロケット高く飛んでてすごかったし楽しかったです！！ ○最初はうまくロケットを作れるか不安だったけど植松さんがわかりやすく教えてくれたり動画を見せてくれたのでうまく打ち上げることができました。 ○とってもうまく飛ばすことができて嬉しかったし、作るときも友だちができて楽しかったです。

○色塗りが終わったあとの完成したときの嬉しさが、とても忘れられません。 ○他校の友達と仲を深められて良かったです。打ち上げは頑張って作ってよかったなと思えました。 ○上手く飛ばせて嬉しかったです。 ○可能性や、新たな自信を持てた。	○ロケットを作ることはもう絶対ないと思うし、わからなかったところは、他の学校の人や植松さんが手伝ってくれたのでとても楽しかったです。また打ち上げるときは、飛ばないかなと心配していたけど無事に飛んでよかったです。 ○予想以上に飛んですごく楽しかったです。
八重東小学校	
○夢と希望をのせて上手く飛ばすことができました。 ○自分が思っていたよりも高く飛びました。 ○ロケットを作るのは簡単だったけど、ロケットの紐とパラシュートを結ぶのが難しかったです。 ○最初は失敗するかもと思っていたけど、飛んだから嬉しかった。 ○うまく飛んで良かったなと思った。 ○意外と簡単だったし、日本で一番最初に作ったロケットと一緒にロケットを作っているということがとてもすごい名誉なのかなと思いました。 ○頑張って作ったロケットがうまく打ち上がって嬉しかった。 ○パラシュートが開いてちゃんと飛んだから嬉しかった。 ○遠くに飛んで楽しかった。	○ロケットづくりや打ち上げで、他校の人と仲良くなれて良かったなと思いました。 ○最初は、ロケットを飛ばす前は、ドキドキしたけどうまく飛んで、ホッとした。 ○うまく飛んで良かったな、嬉しいと思った。 ○植松さんの言うとおり、打ち上げ前はとても緊張しましたが、きれいに飛んで嬉しかった。ロケットづくりでは、他校の人と助け合ってできたので良かった。 ○あまり班の子と話せなかったから、次の機会があれば積極的に話し合っていきたい。 ○楽しかったです。 ○友達と協力して時間どおりに作れました。 ○他校と協力して作ったロケットがちゃんと飛んで嬉しかった。 ○自分が作ったロケットを打ち上げて、楽しかったです。
壬生小学校	
○ロケットを作る班に行った時仲良くなれるか心配だったけど、行ったら積極的にみんな話してくれてすぐ仲良くなれました。打ち上げる前に飛ぶか飛ばないかすごく心配でドキドキしていたけど思ったより飛んでくれて嬉しかったです。 ○他の学校の人と仲良くなったし、ロケットがちゃんと飛んだので嬉しかったです。 ○失敗や不安に負けず強い思いでロケットを打ち上げました。 ○初めて話す他校の人とでも協力してロケットを作ることができました。ロケットの打ち上げのときは不安だったけど飛んだのでとても嬉しかったです。 ○班の人と協力して作ったロケットが飛んで嬉しかったです。 ○最初は知らない人たちと作るのは不安だったけど優しく話しかけてくれたのでほっとしました。ロケットがちゃんととんで、パラシュートも開いたので安心しました。 ○手順が少ないのに、ものすごく高くロケットが飛んだので、驚きました。楽しかったです。	○ロケット作りをしている時、パラシュートなどつけるのが難しかったけど完成すると嬉しかったです。打ち上げになると自分が作ったロケットが飛ぶか不安だったけど勢いよく飛んでいったのですごく嬉しかったです。 ○人見知りだけどみんな優しく、自分が困っているときにわかりやすく教えてもらって楽しかった。打ち上げのときはちゃんと飛ぶか、パラシュートがちゃんと開くとか不安のことまみれだったけどいざ飛ばしてみたらちゃんと飛んで、開いて楽しかった。 ○最初は「本当に飛ぶのかな」と心配していました。ロケットが飛び上がった瞬間に心の中で「やった！」と叫びました。 ○ロケットづくりは、困ったりしたことはあったけど、班のみんながすぐに助けてくれたりして、助け合いながら出来て、楽しかったです。打ち上げは、自分のロケットが飛ぶか心配だったけど、思った以上に飛んで嬉しかったです。 ○ロケットを作っているときに、わからないことがあったけど違う学校の人にわからないことを聞けてよかった。

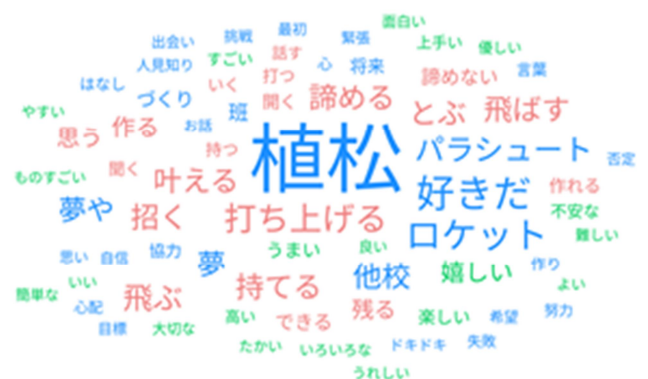
○ロケットが時速200キロも出るのがすごいと思いました。 ○ロケット作りでは、班のみんなと緊張しながらも、色々なお話をしながら作ることが出来て楽しむことが出来ました。 ○打ち上げは、打ち上げる前は緊張したけど、いざ自分の作ったロケットが飛ぶと、とても嬉しい気持ちになって、すごく安心しました。	たです。ロケットの打ち上げで飛ぶか心配だったけど、ちゃんと飛んでパラシュートも開いたので、嬉しかったです。 ○どうしてもロケット製作でわからないことがあって、班の人と分らなかったことを話して、理解することができた。 ○ロケット発射では、ロケット製作でちゃんと作れているか不安だったけど、空高く飛んで不安が消えた。
本地小学校	
○友達と協力してロケット作りができて楽しかった。 ○また作りたと思った。想像以上に飛んだから驚いた。 ○ミスがなかったことが嬉しかったです。 ○ロケット作り自体は難しくなく、作る前にも説明があってわかりやすかったです。打ち上げについては、他校の生徒さんたちと話し合いながらできたのでとても楽しかったです。	○上手くロケットが打ち上がるか不安だったけど上手く打ち上がってくれたから良かったと思った。 ○ロケットをつくって飛ばすのがとても楽しかったです。 ○ロケット作りではちがう学校の人とはなすことができた。打ち上げではずこくロケットがたかくとんですごくかった。
豊平学園前期	
○楽しかった。 ○ちゃんと打ち上がって良かった。 ○仲間と協力して作ることができて、とても楽しかった。 ○とても楽しくて印象に残った。 ○難しかったけど楽しかった。 ○思った以上に飛んで楽しかった。 ○これが飛ぶのかな～と思いながら作っていたけど・・・飛んだから嬉しかった。 ○簡単だけどちゃんとしていて驚いた。 ○うまくロケットが飛んでいて嬉しかった。 ○友達と一緒にロケットを作るのが楽しかった。 ○飛ばすときにすごく緊張した ○予想以上に飛んで、びっくりした。	○ロケットが高く飛んでうれしかったです。 ○飛ぶかふあんだったけど飛び上がってうれしかった。 ○思ったより高くロケットが飛んでくれて、嬉しかった。 ○難しいところは協力できてよかった。 ○とても良くてできた。 ○打ち上げのときは、ドキドキしたけど打ち上がってよかったです。来年の六年生に楽しくしてほしいです。 ○他校の人たちと話してロケットが作れて嬉しかった。 ○飛ばすときにすごく緊張した。 ○私は人見知りな所があり、上手く話せるかなど悩んでいましたが、皆優しく接してくれて人見知りなど忘れて楽しめたので嬉しかったです。

児童のアンケートから

6年生でも、事業後に実施したアンケートで、児童が記載した感想をテキストマイニングしたワードクラウドと呼ばれる図を作成した。

「夢」「あきらめない」「好きだ」など、講演の内容から感じて欲しいキーワードが多く挙げられている。また、実際にその場でロケットを打ち上げられた感想も多く上がっていた。

夢と希望をもつことが出来るきっかけとなり、友達と協力することも出来、事業に対して肯定的な意見が多く見られた。



「北広島ふるさと夢プロジェクト」小学校事業を振り返って

北広島町教育委員会

北広島町内小学校・義務教育学校

「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の11年目を終えた。

4年生の「お宝発見ツアー」事業は、各校でツアーの目的を考え、北広島町を体験出来る内容で事業を行うことができた。5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～事業は、体験活動で学校間交流を行うなど、他校の児童との交流を充実させて実施をすることができた。6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」事業は、講演会、ロケット製作、打ち上げを1日通して集合で実施することができた。

参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると、全体的に「児童に町の魅力を再認識させることができ“ふるさと”への愛着心を育てたり、将来『北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい』という思いや考えを育てたりすることに効果的であったと言える結果が出ている。本事業はふるさと北広島町や自分の生き方について考えを深めることができた事業であるといえる。今後も、時代の変化に合わせ見直しを適宜行いながら、継続して事業を実施していきたい。

プロジェクト全体を通しての振り返り（管理職）

- プロジェクトの企画運営いつもありがとうございます。感謝です。行事を運営するという視点も大切ですが、子どもらの心を動かせる、思考を促せるプログラムへ深化させるために学校側がもっとアイデアを出していかなければと感じています。
- ここまで全町で続けてこられたのは、教育委員会の大きなご尽力のおかげだと思います。事前準備や片付けも効率的に短時間でできるよう準備、指示をしてくださってありがたかったです。1点だけ、成果指標と連動していて難しいのだろうと拝察はしますが、事後のアンケートや作文などの制作物がもう少し減るよう検討していただけると助かります。
- 今年度の3つの体験活動を通して、子どもたちはそれぞれの学年に応じた学びを深めることができました。4年生の「お宝発見ツアー」では、地域の施設見学や自然体験を通して、北広島町の魅力に気づき、ふるさとへの親しみを高めることができました。5年生の民泊活動では、共同生活や自然の中での体験を通して、協力して課題を解決しようとする力が育つとともに、地域の温かさや自然の豊かさを実感する貴重な機会となりました。さらに、6年生の「ロケット事業」では、植松努氏の講演から夢を持ち続ける大切さを学び、ロケット製作・発射の体験を通して科学への興味関心を大きく高めることができました。
- 企画・運営をしてくださった教育委員会の皆様に感謝申し上げます。
- 「お宝発見」「民泊」「ロケット」の実施時期が近く、事務局も忙しそうであり、学校も多忙感を感じる。
- ふるさと夢プロジェクトがねらうことは数年後に子どもたちに返ってくるように思います。
- 提出書類が多いし、時期もバラバラで現場の負担感が大きい。アンケートや作文など事後の課題も多いので精査していただけるとありがたい。
- 夢プロジェクトの取組み自体は、大変意義深いことだと思います。今後ともよろしくお願いいたします。
- 夢プロで、海に触れる機会があると良い。

学年ごとの事業の振り返り（管理職・引率職員等）

※枠内は管理職、他は引率職員

【4年生の「お宝発見ツアー」について】

（成果）

- 壬生小はどんぐり北広島の選手から実際にソフトテニスの手ほどきを受けた後、どのように頑張ってきたか話を聞くことができた。施設や文化財について知るのもよいが、こうして地域で頑張っている大人のすごさに触れる、人に触れる方が目的達成にはより効果的だと感じた。
- 成果は、まずアンプティサッカーについて。地元の施設で指導者の素晴らしい人柄に出会えたこと、障害のある人もそうでない人も共に楽しめるスポーツを体験できたことが良かった。戦国の庭歴史館の資料と石垣は、一見の価値がある。4年生には少々難しい内容だが、子供のころに行ってみたことがあるという経験はあってもよいと思う。
- 地域の産業について学んだり、豊かな自然の中で活動をしたりすることで、北広島町には多くの魅力があることを実感することができました。地域で働く人々の思いや工夫にも触れ、ふだんの生活では気付きにくい本町の良さを改めて知る貴重な機会となりました。
- 町内の様々な施設に行くことができたので、北広島町の良さを感ずることができた。
- あらためて北広島のよさを実感することができた。
- 北広島町の知らないよさを知る良い機会になった。
- 北広島町にはいろいろな宝があるということがわかった。行ったことのないところもたくさんあり、充実した活動となった。

- 北広島町の自然のよさに気づいたり、自然を生かした施設があることを知り、北広島町の魅力を感じたりすることができていた。
- 北広島町だからこそこの体験ができた。身近な施設について知ることができた。家庭では行かない所を知ってもらえる。
- これまで身近にあってもふれる機会が少ない児童がいたが、お宝発見ツアーで地元の文化財について興味・関心をもつことができた。
- 見たことはあるけど中に入ったことがないからどんなところか分からない、なんとなくある施設だったものが、北広島町にこんなところがあるならまた行ってみたいという子どもの声につながったところ。
- いろんな地域に行けて、クイズも用意していただいていたので、とても良かったと思います。
- お宝発見という名前は、ワクワクしますが、一部の子供には行って本物のお宝を探しに行く！という概念がなかなかとれなかったようにも思いましたが、楽しみながら初めて知る発見もあったと振り返りに書いていたので良かったです。
- 普段できない体験ができたのが良かった。
- 町内にある施設等について、接する機会がなければ知らないまま過ごすことになると思うが、この取り組みによって知ることができ、町内のことに関心をもたせることに繋がると思う。教科等の学習内容とつながりのある体験にすることができた。

（課題）

- 事前に学校がそれらの教材としての良さを勉強しておく良かったと思ったこと。
- 調べたことや体験したことをどのようにまとめ、他の人に分かりやすく伝えるかという点に課題が残りました。今後は、事前の学習をさらに充実させたり、体験後の振り返りや発表方法を工夫したりすることで、より深い学びにつなげていきたいと考えています。
- 放送局との連携が十分にできなかった。
- 教科や他の行事との関連づけを工夫する余地はあると思います。

(取組の工夫と改善点)

- ◎キャリア教育の視点を取り入れ、少しでも先の自分の未来について考えるきっかけとなるプログラムを提供していくとよいのではと感じた。
- ◎事前・事後の学校での指導が改善のポイントだと思われる。
- ◎充実していますので、これまで同様でよいと思います。本取組でよい学習材をいただいています。さらにより良いものにするのは学校における学習を充実させることであると思います。
- ◎各施設、盛りだくさんの内容なので、計画段階でどのくらいの内容、時間かがわかるとよい。(新しく赴任してきた先生にとっては特に)
- ◎いつ実施するのか時期は、しっかり検討していきたいと思います。
- ◎今年と同じように、各校でいろいろ選択できるとよい。

- ◎ツアーを通して感じた魅力を、他の学年の児童や保護者に発信することができたらよかった。
- ◎職員がそもそも価値を知らない部分があるので、職員が事前に体験する研修があるとよい。
- ◎地域のことを楽しく知ることができて良かった。
- ◎訪問場所の選定が難しいと思います。意外と自分の中学校区内のことを子どもが知らないことがあるのですが、これはわざわざこの取組で考えなくてもいいことのような気がします。では各校で出来るかという、あえてやろうとする時間も余裕もないし、難しいところです。本来なら、勝手に子どもが遊んでいる中で、自分の行動半径の中にどんなお宝があるか熟知してほしいところですが、昨今の実状は、遊びに行くのに親の車で送迎してもらい始末で、難しいご時世になったものだと感じています。
- ◎4年生の学習内容につながりそうな施設等が他にもあれば選択肢が増えて良いと思います。今でも十分良いと思いますが、話を聞くだけでなく、体験を通して知るのがよいと思います。しかし、体験だけよりはその価値を感じられる話もあるのが良いです。

【5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～】

(成果)

- 民泊受け入れ家庭のスタンスによるところも多いが、この多感な時期に、親元を離れ、少しばかり気も使いながら、他者との共同生活の中、折り合いをつけることを覚えて帰ってきたことは何よりの成果だった。
- 同じ町内でもなかなか行くことのない芸北地域の自然と人々に触れ、生活体験をさせていただくことは故郷を大事に想う上で大きな原体験になると感じた。アマゴのつかみ取りと、それをさばいて食する体験も貴重である。
- 他校の児童とともに活動することに意義がありました。共同での作業や体験活動を重ねる中で、自分たちで課題を見つけ話し合っ解決しようとする姿が多く見られました。また、異なる学校の友達と協力しながら活動することで、相手の考えを尊重し、助け合っ取り組む姿勢が育ってきたように感じました。民泊先の方々との交流や野外での体験を通して、北広島町の自然の豊かさや人の温かさなど、ふるさとの良さを実感することができました。
- 家から離れて自律的な生活を送ることができる。
- 民泊家庭での活動はとても意義深く、何ものにも得難い体験だと思っています。
- 共同生活を通して、北広島町の良さを改めて実感するとともに、自立心、協力する力等をつけることができた。
- 家庭から離れ、集団で生活することで自律的な意欲が高まった。暑さ、民泊家庭の衛生状況が気になった。
- 知らない家に泊まる体験が心に残っている。

- 子どもが、自分で考えて生活するという経験ができた。
- 北広島の自然や文化について、学校外の友達とも協力して、楽しみながら学ぶことができた。
- 保護者と離れた場所で一泊することで、児童の自立心を高めることができた。

○仲間意識が高まり、普段の生活でも友達のことを意識したり、協力したりする姿が見られるようになった。

○普段体験することのできない暮らし体験を子供たちはとても喜んでいました。

○児童は、自然や北広島町の良さを、感じる事が出来た。

○他校の児童との交流や協働した活動を設定されていたので、協働する力は養えることができたと思う。
また、各家庭での活動やウォークラリー、魚づかみ体験を行ったことで、ふるさとのよさを子どもたちが実感できたのではないかなと思う。

○北広島町の自分達の地域以外の自然に触れ合うとともに、他校と一緒に活動することで友達と協力するなどの力を伸ばすことができた。アマゴを食することを通して、命をいただく大切さについて学ぶことができた。

○町内での体験活動を通して、ふるさとの良さを実感したり、初めて知ったことがあったりして学習になった。また、体験活動も充実していてとてもよかった。

(課題)

- 町内の同学年児童による自然の中での共同体験の効果を上げるためには、大人の支援が手厚く、子供同士だけで課題解決する必要が少なかったかもしれない。
- 初めての環境に戸惑い、自らすすんで行動することが難しい児童もあり、協働の力の差が見られました。さらに、体験を通して学んだことを自分の生活へどう生かしていくかを振り返る時間が十分に取れなかったことも課題としてあげられます。今後は、事前に協力の仕方や役割の決め方について学ぶ機会を設け、活動後の記録や振り返りを充実させることで、より深い学びにつなげていきたいと考えています。
- 体験活動の幅が少ない。提出書類が煩雑になってしまう。アンケートが多いので一本化できるとありがたい。
- 受け入れ家庭の方々が、高齢化されてきているなと感じます。長く続けていくためには、1泊2日に見直す等の時期にきているようには思います。
- 暑さ、民泊家庭の衛生状況が気になった。
- 夏休みは暑い。

- 夏休み中の民泊は、子どもの中で「学校に行く」という気持ちが途切れてしまい、「面倒」という気持ちが出てくる
- 自分たちが住んでいる地域での活動は、近所に遊びに行く感覚に近くなってしまう
- 八幡ウォークラリーの移動に児童も教員も見通しを持てなかった。矢印や案内板などの設置や、事前の説明を視覚的に分かりやすくしてもらえるとありがたいです。
- 年々、暑さが厳しくなっており、日中の活動の安全性を十分確保することにとっても神経をつかう。
- 持ち物で女子の中で必要のないヘアケア道具や化粧水などを家庭で判断して持ってきていない児童もいれば、持ってきてしまっている児童がいてトラブルまでにはならなかったが、嫌な思いをしたと報告を受けました。
- 夏なので、衛生面で少し心配である。
- ウォークラリーや魚づかみ体験を通して、子どもたちが何を目的に活動するのか不明瞭だった気がするので、事前指導も含めて課題意識を持たせたいなと思う。
- 今回、ウォークラリーの活動を行い、児童達は楽しむことができたが、指導者の方がコースを迷い、事前の下見が必要だった。

(取組の工夫と改善点)

- ◎上記の学びを自覚し、般化させていくためにも、活動直前、直後に学校において自分と向き合う時

間を確保したいと感じるが、長期休業中、特にお盆明けのスケジュールではそれが難しかった。

◎室内でもよいので、他校の子供同士が、共同せざるを得ないミッションのようなものがあるとよいかもしれない。

◎充実していましたので、これまで通りでよいと思います。やはり、活動を価値あるものにしていくためには、各学校における事前指導、事後学習を計画的に行うことや、発表の場を持つこと（表現）が大切だと思います。

◎昼集合、昼解散は、親の負担が大きい。夏休みの開催は、熱中症等の心配が大きい。民泊家庭ごとの体験内容に差が大きいと、指導がしにくい。

◎実施期間の見直しは必要じゃないかと思います。他市町では、既に1泊2日のところもあります。

◎熱中症や天候など、時期的に心配なことも多いので、開催時期も含めてより良い取組となるよう今後も継続して協議していくことが大事だと思う。

◎子どもたちが受け身な活動が多い。もっと子どもたちが主体的に活動できるものをしてほしい。

◎いっそ冬に開催すれば、芸北の雪を体験できるし、熊の心配もない。

◎今年度、夏休み期間中に実施することで、授業時間を確保することができてよかった。来年度以降も、夏休み期間中の実施がよいと思う。

◎ウォークラリーで、すべてのチェックポイントを回れないグループもあった。スタート地点を句碑にするなどして、総歩行距離が短くなるようにすると、よかったのではないかな。

◎アマゴのつかみ取りは来年も実施してほしいです。

◎暑い時期ではない季節を感じられたら良い。

◎せどやま市場体験にも参加してみるのもよい経験になるかなと思う。芸北小が単独での民泊体験なので、他校とも一緒に活動する機会ができないかなと思う。

【6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」について】

（成果）

○科学への興味関心という部分では達成度に個人差があるように感じるが、自分の将来を前むきに捉える機会としてはほぼ全ての児童に有効であったと感じた。

○素晴らしい講師の方との出会いがあったこと。ロケットを飛ばすというなかなかできない体験ができたこと。

○「あきらめなければ夢は実現に近づく」という植松先生のメッセージに強く心を動かされ、自分の夢や目標に向かって挑戦し続けることの大切さを学ぶことができました。また、班ごとに協力しながらロケットを設計・製作し、実際に発射させるという体験を通して、科学の仕組みに対する興味関心が高まり、より主体的に学ぼうとする姿が見られました。

○植松先生の話はいつ聞いても素晴らしい。

○植松先生のお話は何度聴いても、大人が聴いても勇気と力が湧いてくる素晴らしい話だと強く感じます。ずっと続けていただきたいです！

○夢の大切さについて、体験をもとにとってもいい話を聞かせてもらった。

○植松さんの話を聞いて、子どもたちが自分の将来を考えることができた。

○植松氏の話が最高。子どもの心にいつまでも残る。

○児童に夢をもち、自分らしく生きることの大切さを感じてもらえたことが成果だと思います。ありがとうございました！

- 子供達が植松さんのお話を聞いてこれからの人生に希望が持てたこと。他校の児童とも何か話そうと意欲をもってこのプロジェクトに参加できたこと。
- 他校の6年生児童と交流でき、「中学校で会うのが楽しみ」と感じている児童が多くいることは成果だと思います。
- 植松先生の貴重なお話を児童が聞くことができたことや、児童の感想に「諦めない」「高く飛んでほしい」「本をもっと読みたい」のような前向きな言葉が多くあったことが成果だと考えました。また、他校の児童と積極的に関わろうとしている児童が多く、陸上記録会でも話をしたなど言っていたので北広島町内で交流ができたことも成果だと感じました。
- 他校との交流ができたり、植松さんの話が児童の今後の生き方につながるお話でとても良い。
- わかりやすくとても楽しいお話なので、児童の心にもしっかり残っていたと思います。夢を持ち続けることの素晴らしさ、そのためにはどうするのが良いかということを学ぶことができたのではないかと思います。ロケット製作も良かったです。
- 「夢を持つことの大切さ」を、実際に夢を叶えた方による講演で具体的に学ぶことが出来たことで、児童の将来を考えることに対する意識が高まったように思います。
- これから中学生、高校生となる子どもたちに夢を持ち続ける素晴らしさについてのお話はとても分かりやすく、子どもたちも様々なことを考えられる内容だったように思います。また、町内の6年生と共にロケット製作をする活動も良かったです。

(課題)

- ロケット製作についても、もっと子ども同士で説明書を読みながら相談しながらできるとよい。
- ロケット製作では、材料の扱い方や作業工程の理解に個人差があり、協力しながら進めることが難しい場面もありました。講演で得た学びを、日常生活や将来の目標にどのように結びつけていくかを継続的に考える機会が必要です。今後は、事前に科学的な視点を育てる学習を充実させるとともに、活動後の振り返りや記録を丁寧に行うことで、学びをより深めていきたいと考えています。
- グループ活動の時に児童同士の関わりが難しいグループがあった。
- 行事自体が午後まで延びる。
- もう少し他校の児童と触れ合えると良かったです。例えばですが、ロケット作りをしたグループでお弁当を食べるなど。
- ロケットの打ち上げを、もうすこし、余裕を持ってできると良い。どんどん打ち上げたのももう少しゆっくりできたら良かった。
- グループでのロケット作りの際に、もう少し児童同士の交流が生まれるとよかった。
- 製作の時だけでなく、お弁当の時間なども他校同士の連携があっても良いかなと感じました。

(取組の工夫と改善点)

- ◎講演会については、大人が聴講するような堅い雰囲気でしたが、もっと柔らかい雰囲気で例えば車座になって双方向にやり取りしながらお話を聞くようなことができないだろうかと思ったりします。その方が、次のロケット制作の雰囲気も和らぐのではないかと。
- ◎植松先生の話は、児童にとって新たな世界が広がるとも価値のある事業だと思います。引き続き実施していただきたい事業です。
- ◎タイムスケジュールが難しいかとは思いますが、植松先生の話聴いた後の感想交流ができたらしめるといいかなと思います。
- ◎朝を早くして午前中に終わると午後の授業ができる。
- ◎時間的な余裕がない中、活動を工夫してくださりありがとうございます。
- ◎ロケットの打ち上げを工夫したら良い。
- ◎グループでの製作時、特別支援学級の児童が緊張と見通しのもてなさで塞ぎ込んでいた場面があった。事前に見通しを持たせ、準備できておけばよかった。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」中学校事業について



芸北中学校

大朝中学校



千代田中学校

豊平学園 後期課程



北広島ふるさと夢プロジェクト中学校事業では、各校で行っている地域の資源を活かしたふるさと学習に加え、今年度より進路学習・キャリア教育の一環と位置づけ、生徒に対し町内企業を知ること、町内就職へのイメージを沸かせ、将来の進路検討に町内就職を加えることを目的とした「企業訪問」を実施する。

令和7年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告（芸北中学校）

1. 実施した活動について

日時：令和7年6月30日（月）8：25～15：30

場所：大朝地域（オオアサ電子株式会社/株式会社ダスキン広島中央工場）

千代田地域（北広島町役場/まちづくり会社はなえーる/広島アルミニウム工業株式会社）

人数：芸北中学校2年生9名

ねらい：北広島町における少子高齢化の課題克服に向け、若者の他市町への流出を防ぎ、地元定住のためには町内事業所への更なる就労促進することを目的とし、中学生が町内事業所を訪問し、自らの職業観や将来の就労について理解を深める。



2. 生徒の感想

○企業訪問を通して、仕事に関する興味が深くなった。将来、北広島町の仕事に就くことで、もっと北広島町をより良くすることができるのだと思った。もっと北広島町を知ってもらい、来てもらえる人を増やすことも活性化につながるということが分かった。町長さんや議長さんの話を聞かせてもらうこともでき、働いてみたくなった。



3. 活動を終えて

今回の企業訪問を通して、生徒達には事業所の作業的な内容だけではなく「北広島町のために…」「利用していただく方のために…」といった視点も語っていただいたことで、働くことの意義についてより深く学ぶことができた。地元企業の良さを再発見するだけではなく、生徒自身が社会的・職業的自立に向けて考えていくための大切な学びの一つとなった。

令和7年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告（大朝中学校）

1. 実施した活動について

日時：令和7年5月23日（金）9：00～14：15

場所：大朝地域（オオアサ電子/わさーるマート/わさーる産直館/北広島町役場大朝支所/北広島町社会福祉協議会）

人数：大朝中学校2年生16名



2. 生徒の感想

○オオアサ電子のエグレッタスピーカーに興味を持ちました。360度から音が出ていて全体に響いていてすごいと思いました。

○どの仕事にも大変さとやりがいがあるのだということがわかり、面白かったです。

○たくさん話を聞いて疲れましたが、勉強になりました。



3. 活動を終えて

身近な地域の事業所について、見学したり話を聞いたりできたことで、地元で働くということについて具体的にイメージできる貴重な機会になったと思います。特にオオアサ電子では、スピーカーの実演を見学したことで、自分たちの地元になんかすごい製品を作っている企業があるということに生徒たちは感動していたようです。ふるさと大朝に誇りをもってほしいという話も印象に残りました。

令和7年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告（千代田中学校）

1. 実施した活動について

日時：令和7年9月17日（水）8：40～15：40

場所：千代田地域（株式会社やまびこ/株式会社タカキベーカーリー/北広島町役場/広島アルミニウム工業株式会社）

人数：千代田中学校1年生70名



2. 生徒の感想

○働く人がとても真剣に仕事をしていることが分かり、自分も将来について真剣に考えていこうと思いました。

○会社の人分かりやすく説明してくれて、仕事の内容だけでなく大切にしている思いも伝わってきました。

○働くことは大変そうだけど、その分やりがいもあると知り、今のうちからもっと努力しようと思いました。



3. 活動を終えて

生徒たちは企業訪問を通して、普段の授業だけでは得られない「働くことのリアル」に触れることができました。

実際の職場の雰囲気や仕事への姿勢を目の当たりにし、多くの生徒が驚きと学びを口にしていました。特に、地域の企業がどのように社会に貢献しているのかを知り、働くことの意義を考える良い機会となりました。今回の経験が今後の進路選択や学習への意欲につながることを期待しています。

令和7年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告（豊平学園）

1. 実施した活動について

時期：令和7年9月11日（木）8：45～15：30

訪問先：大朝地域（オオアサ電子株式会社/丸二株式会社 大朝工場）
千代田地域（広島協同乳業株式会社/広島北ホテル）

人数：豊平学園7年生10名



2. 生徒の感想

○これまで将来のことについてあまり考えてなかったけど、今回の企業見学を通して、一つ一つの仕事に込められている工夫や努力を知り、将来の夢について真剣に考えてみようと思いました。また北広島町にはまだまだ知らない企業がたくさんあったことに驚きました。

3. 活動を終えて

企業見学は生徒の地元に対する知見を広げることができたと思います。いずれの企業も見学や体験等あり生徒の職業観の育成につながりました。

今後は、次年度実施予定の職場体験学習とこの企業見学がうまく繋がるように事前学習などに取り入れ、充実した学習になるように進めていきたいと思っています。



お わ り に

北広島ふるさと夢プロジェクトは、「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」を目的としています。

これまで、地域のひと・もの・ことに関する学習や町内企業・施設での体験学習を通じて町内あるいは近隣学校の同学年同士の親睦を図る取組を行い、本町の豊かな自然・歴史・文化を生かして児童生徒一人一人の郷土への理解と愛情を深める学びを広め、ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成を図ってきました。

小学校事業では、４年生は町内お宝発見ツアー、５年生は芸北地域での民泊、６年生は株式会社植松電機代表取締役の植松努さんによる、「夢と希望をのせてロケットを飛ばそう」講演会を行う事が出来ました。５年生、６年生の体験活動は、複数校の学校で実施することにより、町内の仲間意識の醸成も図られてきています。

中学校事業では、今年度より町内企業を知ることによって将来の就職の検討に町内就職を加えるものとして企業訪問を実施しました。参加した生徒からは町内企業を知ることが出来たとの感想がありました。

少子高齢化が進む中、改めて人と人のつながる社会の必要性を考えるとところです。北広島町がめざす「ふるさと学習」では、町内の児童・生徒の中に「北広島町の大切な人の顔、場所、思い出がどれだけ浮かぶ教育ができるか」が重要な点だと考えています。人口減少と人口流出が進むわが町にとって、郷土愛の涵養はよりいっそう重要な課題となっています。新しい生活様式のなかでも、ふるさと「北広島町」で活躍する大人たちと様々なかたちで触れ合うことで、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、将来の地域を支える力につながればと思っています。

北広島ふるさと夢プロジェクト事業も、開始から１０年が過ぎる中で、子ども達の中にふるさとを大切に思う気持ちが育ってきています。安心安全を点検軸にして、改めて見直しを行いながら、引き続き事業を実施していきたいと思います。

今後も、子どもたちが予測のつかない社会の中でも、たくましく生きぬく力を身につけるための学びを進められるよう、地域・保護者の皆様には引き続きご理解、ご協力を賜りたく存じます。

北 広 島 ふ る さ と 夢 プ ロ ジ ェ ク ト 応 援 隊

副 隊 長 増 田 隆

（北 広 島 町 教 育 委 員 会 教 育 長）